

『類雑集』翻刻〔五〕

近世唱導文芸研究会

『類雑集』は近世に編纂された説教資料である。全十巻に総目録一巻。内典・外典等からの抜書きを分類配列した、いわゆる類書で、全体は六道門・傍生・人間・天上（以上巻一）、三乗門・仏身門（巻二）、經法門・僧衣門（巻三）、修行門・供養門・屋舎門（巻四）、恩孝門・神祇門（巻五）、員數門・字義門・時節門（巻六）、国土門・草木門・器財門・医薬門（巻七）、無常門・不淨・苦患・愚惑門（巻八）、勸學門・摺折門・雜語門（巻九）、含藏門（巻十）からなる。今回は巻五の恩孝門・神祇門を翻刻する。

凡例

一、大正大学図書館蔵、慶安四年版『類雑集』卷第五の翻刻である。

一、翻字に当たつては原本の字体を再現するよう努めたが、困難な場合は正字、あるいは通行字に直した。

一、本文理解を助けるため、凡例の後ろに【主要異体字表】を付した。

一、脚注ならびに補注において、仏典に典拠を求められるものは大正新修大藏經（S A T 大正新脩大藏經テキストデータベース）の所在・頁数を、また他の資料・作品にみえるものについてもその所在を示し、異同があれば該当部頭に*を施し示した。

例 *人間→鬼世間

例 鬼子母經＝『佛說鬼子母經』（大正藏21）290c17～18

一、脚注に收まらない異同・考察等は「→補注」を脚注に示し、後部の補注を参考するようにした。

一、翻字の分担は左の通りである。

1 才 9 ウ 1	清水宥聖	9 ウ 2 19 ウ 4	首藤卓哉
19 ウ 5 26 ウ 8	平間尚子	26 ウ 9 33 オ 6	北林茉莉代
33 オ 7 39 ウ 2	岡田亜由未	39 ウ 3 44 ウ 2	室賀和子
44 ウ 3 51 オ 1	中島紀子	51 オ 2 58 オ 7	中村花緒
58 オ 8 64 ウ 6	岩谷泰之	64 ウ 7 71 オ 5	室賀和子
校正	北林茉莉代	平間尚子	

【主要異体字表】

以下は、本翻刻で扱つた主な異体字の一覧である（順不同）。

本文では、字形に近い文字を採用するよう努めたが、困難な場合は正字・通行字で代用した。判別の容易なものや、部首の一部が通行字と異なるもの（目と臣、眞と真、兑と兌と允、一と𠂇、ノと

シ、シと彑、ヰとヰ、吉と𠮷）などは紙幅の都合上割愛した場合がある。

なお、示編や食編におけるネと示、食と食などの使い分けは本文に則つた。

また、シと彑など混同が見られる場合があるが、特別な場合を除き、本文に即すよう努めた。

通行字 異体字

通行字 異体字

通行字 異体字

通行字 異体字

契	養	体	臥	嘗	災	過	惡	蓋	雜
契	娘	體	臥	嘗	灾	過	惡	蓋	雜
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
契	躰	・	臥	嘗	・	・	・	・	・

遂	等	左	因	興	永	惱	承	觀	恩
遂	等	左	回	兜	永	惱	兼	觀・観	恩

殺	略	靈	姨	迎	微	鋒	坐	所	回
斂	畧	靈	姨	迂	微	鋒	坐	所	回
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
斂	畧	・	・	・	・	・	・	・	・

逆	芻	様	帰	奏	喚	節	胸	答	最
逆	芻	様	歸	奏	喚	節	胸	答	最
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
逆	芻	・	・	・	・	・	・	・	・

通行字 異体字

和 卯 終 願 昇 幡 花 再 煢 漆 悉 麓 事 庭 聰
|| || || || || || || || || || || || || || || || ||
咷 夂 繼 頽 眇 憎 苍 冊 獸 漆 悉 蘦 夬 迤 聰

通行字 異体字

講 復 惨 焉 刹 違 珍 迂 卵 深 覆 負 稽 還 热
|| || || || || || || || || || || || || || || || ||
誦 復 耻 眇 刹 違 珍 邊 姣 深 覆 負 稽 還 热
• 違 邊 姣
• 邊 姣
• 邊

通行字 異体字

麗 蘇 称 能 髮 筑 雖 摄 歲 差 憑 毀 改 忘 哀
|| || || || || || || || || || || || || || || || ||
麗 鮋 称 能 髮 筑 雖 摄 歲 差 憑 毀 改 忌 哀
• 雖 摄 歲 差 憑 毀 改 忌 哀
• 雖 摄 歲 差 憑 毀 改 忌 哀

通行字 異体字

雀 留 州 肉 岡 含 曼 处 陰 戲 隱 嚴 極 讛 席
|| || || || || || || || || || || || || || || || ||
雀 苗 苗 肉 正 含 曼 处 陰 戏 隱 嚴 極 讛 席
• 肉 正 含 曼 处 陰 戏 隱 嚴 極 讛 席
• 肉 正 含 曼 处 陰 戏 隱 嚴 極 讛 席

類雜集卷第五

○恩孝門

釋氏要覽云 凡釋氏晨暮祝香礼佛乃至作^{モモ}
一毫善事皆回向四恩三有者盖是廣大心
報恩申孝之至也

■四恩事

又云恩有四焉一父母恩二師長恩三國王恩四施主恩大乘本生心地觀經佛言世間恩有四種一父母恩二衆生恩三國王恩四寶恩如是四恩一切衆生平等荷負父母者父有慈恩母有悲恩若我住世一劫說^{モモ}不能盡^{モモ}二衆生恩者無始已來一切衆生輪轉五道互爲父母各有大恩故三國王恩者福德最勝雖生人間得大自在三十三天常以^{モモ}其力護持國界山河大地盡屬國王是故大聖王以正法化能使衆生悉皆安樂○後訖華嚴經云國有君王一切獲安是故人王爲一切衆生安樂之本在家出家精心道檢皆依正國而得往持演化流布若無王力功行不^{モモ}

釋氏要覽云=『釋氏要覽』(大正藏54)

289b27~29

□

又=『釋氏要覽』(大正藏54)

289c1~290a29

王→釋主

」 1才

成セ法滅、無シ餘况ヤ能ク利濟セヤ是ノ故ニ所レ修一切ノ功一徳

六分カ之一常ニ属國王ニ願ハ王福山崇固、難レ壞オ薩

遮經云王者民之父母ナ以法攝護シ衆生ヲ令ル安

樂ナラ故ニ又礼佛時常ニ爲諸天龍神ノ願ニ風雨順レ時ニ

文武百官常ニ居スレ禄位ニ者西域記云大臣ト者國

之重鎮農務ト者人之命食國失、鎮則バ危ク人絶

食則バ死ス又佛法付ニ属國王大臣ニ故常ニ須繫心

祝願也四ニ三寶ト者佛法僧寶具ニ足無量ノ神

通變化ニ利ニ樂有情ニ暫モ無ニ休息ル。正法念經ニ云如

來三界最勝度脱生死ニ此ニ恩難レ報若於佛法

深心ニ得レ不ニ壞信ニ是ニ名ニ報恩ト華嚴經偈ニ云如來

無數劫勤苦爲衆生ニ云ニ何諸ノ世ニ間不レ報大師ノ

恩ニ報恩經ニ云父母ト者三界最勝ノ福一田ナ。毘奈耶

律ニ云父母於テ子ニ有ニ大勞苦ニ護持長養資以ニ乳

哺ニ假ニ使一肩ニ持母ニ一肩ニ持父經ニ於百劫ニ徒ニ自

疲ニ勞或ニ持ニ七寶種種ニ供養ニ令ニ富樂亦未タ報ニ

父母ノ恩ナ若其父母無ニ信者令ニ起ニ信心ヲ若無ニ戒

者令ニ住ニ禁戒ニ若性慳ナ者令ニ行ニ惠施ラ若無ニ智ニ惠

者令ニ起ニ智ニ惠ニ子能如ニ是方曰ニ報恩ニ。不思議光

經云非飲食及寶能報父母恩引導向正法
便爲供親。弥沙塞律云佛言從今聽比丘
盡心盡壽供養父母。若不供養得重罪。又云
我聽五處縱極破戒應供養。謂父母親教

師受業和軌範師及病人又云出家人於父

母應供養供給於三衣外自餘物或從施主

乞或從僧得利。或僧所常食之分減半供給
若常乞食亦與己所滿腹食內應取其半濟中

其父母上。中心經云佛言知師恩者見師則羨

事不見則思。惟教如孝子之念父母。如人

念飲食等。大方廣不思議境界經云當供養

父母和尚及世間曾致饒益賴其恩者應念

倍增報恩何以故知恩者雖在生死不壞善

根不知恩者善根斷滅是故諸佛稱讚知恩

報恩者。或問釋氏爲俗人作疏子亦有云奉

爲四恩者其國王父母可知其師長施主何

耶答經不云及世間曾致饒益賴其恩者若

教授經書伎術事業或令避惡從善者皆師
長也夫師者教以之道之稱也若假借財本極

「苦与」樂者皆施主也夫施者有三種一財施
謂與人財二心施謂慈悲心與人樂三法施
謂說法利人等

二 孝事

」 37

又=『釋氏要覽』(大正藏54)

290b1～290b11

又云尔雅云善事父母曰孝○論法云慈愛忘
勞曰孝○雜記云養德順理不逆於時曰孝○
○四天王經云佛告諸弟子慎汝心一念無受五
欲漱情去垢無求爲首內以清淨外當盡孝

○梵網經云佛初坐道樹成無上覺初結菩
薩波羅提木叉以孝順父母師僧三寶順
至道之法孝名爲戒○孟蘭盆經云佛令比丘
爲七世父母設盆供養佛及自恣僧世行人
一身釋氏行孝兼爲七法苑云持戒即是行

世父母可謂孝矣

孝謂一切衆生皆曾爲我父母宗親今持戒
不殺生不偷盜等是名行孝

三 悲母恩事

心地観經第二云世間悲母念子無比恩及
未形始自受胎經於十月行住坐臥受諸苦
惱非口訖宣雖得欲樂飲食衣服而不生念

」 4才

三

心地観經第二=『大乘本生心地觀經』

第一(大正藏3) 297a24～b6 b13

～b19 301b27

之心^ヲ恒^ニ無^ニ休息^但自思惟^{*}時欲^ニ生產^{漸受^{*}諸苦^ヲ}

晝^一夜^二愁^{惱^ス}若產難時如^ニ百千刃競來^テ屠割^{スルカ}

遂^致無常^{若無^ニ苦惱^諸親^{}屬喜^{樂無^ニ盡^{猶如}}}

貧女得^{如意珠^ヲ}其^ノ子發^{聲^ヲ}如^{聞^ニ}音樂^ヲ以^ニ母^胸

臆^ヲ而爲^ニ寢處^ト左右膝上^ニ*而常^ニ遊履^ス於^ニ脅臆^ノ中^ニ

出^ニ甘露^ノ泉^ヲ長養之恩^{*}遍^於普天^ニ憐愍之德廣

大^ニ無^比世間^ノ所^{高^{スル}}莫^{迦^ニ}山岳^ニ悲母之恩逾^於

須弥^ニ世間之重大地^ヲ爲^レ先^ト悲母^ノ*恩亦遍^於彼^一

○若善男子善女人爲^レ報^ム母恩^ヲ經於一劫^ニ每^日

日三時^ニ割^サ自^ノ身肉^ヲ以^テ養^ム父母^ノ而未^タ能^レ報^ム一日

之恩^ヲ以^テ者何一切男女處^ニ于胎中^ニ口吮^シ乳

根^ニ飲^シ噉^ム母血及^シ出胎已^テ幼^ニ稚^ニ之前所^ノ飲母^ノ乳

百八十^{*}石母得^{上味^ヲ}者先与^ニ其^ノ子^ニ珍妙衣服

亦復如是

慈父恩高^{如^ニ山王^ヲ}

悲母恩深^{如^ニ大海^ヲ}

*我若住^ニ於世^ニ一劫

說悲母恩不能盡

世間悲母^ノ懷^ニ其^ノ子^ヲ

十月懷胎長受^{苦^ヲ}

於^ニ五欲樂^ニ*不^ニ執著^一

隨時^ニ飲食亦同然^一

晝夜常^ニ懷^ニ悲愍^{心^ヲ}

行住坐臥受^{諸^{苦^ヲ}}

經→心終 念→心愛憂念
時→心將 遂→心或 屬→心眷屬
而常→心常爲
恩→心之恩
恩→心彌
而常→心常爲

石→心斛

以下の偈文301b27～302b27にある

が連続してはしない。断続的に引用したものである。

我若住於世→心若我住世於 懷→心
孕 不執著→心情不著

若正誕_ニ其_ノ胎藏_ノ子_ヲ
迷惑東西_ニ不_レ能_レ弁
或_ハ曰_ニ此_ノ難_ニ而命_ニ終
母子恩_ニ情_ニ當_ニ如_レ是
母乳猶如_ニ甘露泉_ヲ
慈念之恩實_ニ難_ニ比
世間大_ニ地_ニ猶_ニ爲_レ重
世間_ニ湏_ニ亦稱爲_レ高
若有男_ハ女依_ニ母教_ニ
一切灾_ニ難_ニ消_ニ除
若能羨_ニ順_ニ於悲母_ニ
大悲菩薩_ニ仁_ニ人間_ニ
何_ノ法_ニ世間最富_ニ有
母在_ニ堂時爲_ニ最富_ニ
母在之時爲_ニ日中_ニ
世_ニ間爲_ニ子造_ニ諸_ノ罪_ヲ
男女非_ハ聖無_ニ神通_ヲ
哀哉世人無_ニ聖力_ヲ
以_ニ是_ヲ曰_ニ緣_ニ汝當_ニ知

如_下攢_ニ鋒刃_ヲ解_上* 支_節
遍身_ニ痛苦無_ニ底_ニ堪_ル
六親眷屬咸悲惱○
出入不_レ離_ニ胸臆_ノ前_ヲ
長養及時曾_ニ無_ニ竭_ル
^{*}菊育之德亦難_ニ量
悲母恩重過_ニ於彼_ヲ
承_ニ頤顏色_ニ不_ニ相透_ル
諸天擁護_ニ常_ニ安樂_ヲ
如_ニ是_ヲ男女悉非_ニ凡_ニ
示_ニ現報恩諸方便_ヲ
何_ノ法_ニ世間最貧無_ニナ_ル
母不_レ在時爲_ニ最貧_ニ
悲母亡時爲_ニ日沒_ニ
墮_ニ在_ニ三_ニ途_ニ長受_ニ苦_ヲ
不_レ見_ニ輪_ニ圓_ニ難_ニ可_レ報_ル
不能_レ拔_ニ濟_ニ於慈母_ヲ
勤_ニ修福利諸_ノ功德_ヲ

— 5 ヴ —

支_↓心_肢
痛苦_↓心_{疼痛}
當如_↓心_{常若}

菊_↓心_鞠
猶_↓心_稱
湏_↓心_須

— 6 才 —

間 _↓ 心 _人	仁 _↓ 心 _化
回 _↓ 心 _迴	世 _↓ 心 _出
途 _↓ 心 _塗	

以^ニ其男女追勝福^一

光中演^ニ說深妙^ノ音^ヲ

憶^ニ昔^ニ生常造^ノ罪^ヲ

口稱^ニ南無三世佛^ト

往^ニ生人天^ニ長^{*}離^ノ苦^ヲ

或生^ニ十方淨土^ニ中^一

華開見^ニ佛悟^ニ無生^ヲ

獲^ニ六神通自在力^ヲ

有情輪^{*}回^ニ生^ニ六道^ヲ

或^ハ爲^ニ父母^ト爲^ニ男女^ヲ

一切男子皆^ニ是^レ父^ヲ

如何^ニ未^タ報^ニ前世^ノ恩^ヲ

四佛母猶母子緣不忘事

摩訶摩耶經云一時佛在^ニ忉利天歡喜^{*}園^中

波利質多羅樹下^ニ三月安^ニ居^モ余時^ニ佛告^ニ文殊

師利童子^ニ汝詣^ニ母^ト*所^ニ我在^ニ此^ニ願^ハ母暫屈^ニ札^ニ敬^ム

三寶^ヲ并以^ニ此偈^{*}白^ニ母說^ニ之余^ニ時^ニ世尊而說^ニ偈^ヲ

言^ニ

釋迦大仙師

成就一切智^ヲ

在^ニ於闍浮提^ニ

有^ニ大金光^ニ照^ニ地獄^ヲ

開^ニ悟^ニ父母令^ニ發^意

一念悔心悉除^ニ滅^ム

得脫無^ニ暇苦難^ニ身^ヲ

見^ニ佛聞^ニ法^ヲ當^ニ成佛^ヲ

七寶^ヲ蓮華^ヲ爲^ニ父母^ヲ

不退^ニ菩^薩爲^ニ同學^ヲ

得^ニ入^ニ菩^薩微妙宮^ヲ

猶如^ニ車輪^ノ無^ニ始終^ヲ

生生世世^ニ互有恩^ヲ

一切^ニ女人^ト皆^ニ是^レ母^ヲ

却^ニ生^ニ異念^ニ成^ニ怨嫉^ヲ

」 6ウ

離苦^ニ心受樂^ヲ

薩^ト心提^ヲ

回^ニ心迴^ヲ

四

摩訶摩耶經^ニ『摩訶摩耶經』(大正
藏12) 1005a6~7 a20~b9 b15,
b21~29

園^ト應^ス所^ニ應^ス所道^ヲ
白^ト應^ス所^ニ應^ス所向^ヲ

猶如三眼天

慇懃情渴仰

久欲觀慈顏

本昔王宮中

生我七日已

神昇受天福

姨母長乳養

致得成正覺

應供度衆生

今故至於此

說法報往恩

願母與眷屬

屈來致此處

敬禮佛法衆

并受真淨法

余時文殊師利童子受佛教勅即便往至摩

訶摩耶既以佛言而往白之并語如來所說

之偈時摩訶聞斯語已乳自流出而作

*此言若審決一定是我所生悉達多者當令乳

汁直至其口作此語已兩乳涌出猶白蓮華

而便入於如來口中時摩訶耶既見此已

踊躍遍身即與文殊師利童子俱趣佛所即

於佛所以偈讚曰

汝從無數劫恒飲我乳汁故離生老死

得成無上道宜應報恩類

斷我三毒本

歸命大丈夫

無貪惠施者

皈命調御士

取上無能過

皈命天人師

永離癡愛縛

日夜各三時

念想不斷絕

稽首頭面礼

無上大法王

致↓(摩)到
則↓(摩)即
語↓(摩)誦

此↓(摩)是

其口↓(摩)口中

此↓(摩)是
乳涌↓(摩)

乳乳

五母恩事

涅槃經第九菩薩品奇哉我母受_二大苦惱_ヲ滿_ニ足
十月₋懷₌抱我身_ヲ既生_」之後₋*推_{〔ナツリテ〕}乾去_、濕_{アル}除_「去不
淨_、大小便利_ヲ乳₋*哺長₋養將₌護我身_ヲ以_ニ是義_ヲ故
*我當_、報_、*恩_色娘侍衛_シ隨順供娘_ハ

六乳哺價直事

大論云三年間母乳百八十石一升直_{一萬}一
千八百五十石直_{一億五百七十萬石但乳}
一升直米充_{一萬八千八十五石五升稻充}
二萬三千七束余_、布充_{三千三百余段}也

七母十德事

心地觀經_云母有_二十德_{一名}大地_於母胎_中
爲_三福₋依₋故_二名_{能生}經_{歷衆苦}而能生_ル故_三
名_{能正恒}以_ニ母_、手_、理_ヲ五根_ヲ故_四者名_{五根}育_ト隨_ニ
四時宜_{能長}娘故五_{*}者名_{智者}能_{*}知_ニ方便_便故
六_{*}者名_{莊嚴}以_ニ妙瓔珞_ヲ而嚴_飾故_七六_{*}者名_安
隱₋以_ニ母懷₋抱_爲止息_故八名_{教授}善巧方便
導_ニ引子₋故九_{*}者名_{教誠}以_ニ善言辭_離衆惡_ヲ故
十_{*}者名_{與業}能_{*}爲_ニ家業_付_ニ*屬子_ニ故

五

」 8ウ

涅槃經第九_、『大般涅槃經』(三十六
卷) (大正藏12) 662a2~
推乾_→④乾推_、哺_→④哺_、我_→④涅ナシ_、恩_→④母恩

四

大論_、『大智度論』(大正藏25)に該
当本文なし。『刑部左衛門尉女房御
返事』(日蓮大聖人御書全集)
に酷示文あり。

五

心地觀經_、『大乘本生心地觀經』
(大正藏3) 297b23~c2

者_→心ナシ 知方便故_→④以方便生
智慧故 者_→心ナシ

爲_→心以 屬_→心囑

八母十恩事

父母恩重經云一「懷擔守護恩」二「臨產受苦恩三「生子忘憂恩」四「燕苦吐甘恩」五「廻乾就濕々六「乳哺養育恩」七「洗濯不淨々八「遠行憶念恩」九「爲造惡業々十「究竟怜愍恩」

産子苦痛事緑外御抄尾張刑部左衛門女房御抄委判下
ヘリ畧之女人嫌下藥師經疏アリ可見之

九孝養^ヲ名戒事

梵網經下「云尔時釋迦牟尼佛初坐菩提樹

下「成無上覺」初結菩薩波羅提木叉「孝順父

母師僧三寶」孝順至道之法「孝名爲戒亦名制止ト文」

義記上云一「標^ス眞^ニ結^ノ名^ヲ」即是木叉ナリ

二能成勝曰「謂孝事等^{ナリ}」寶藏經云孝事^{スレバ}父母

天主帝釋在汝家^ノ中「又能行孝大梵尊天在

汝家^ノ中「又能盡孝釋迦文佛在汝家中^ニ摩

菩薩親^ノ眼患愈慈心童子[・]大禍速滅即其靈應^ノ文

義記ノ引此文也雜寶藏經云佛在舍衛國告諸比丘「○若

有人欲得^ニ梵王在^ニ家中者能^ク孝養^{スレバ}父母[・]梵王即在^ニ家中^ニ欲^レ使^ニ帝釋在^ニ*家^ノ上者能^ク孝養^{スレバ}父母[・]即^ニ是帝釋在^ニ家中^ニ欲^レ得^ニ一切天神在^ニ家中^ニ者但

八

父母恩重經=不詳

「緑外」は「錄外」のことか。

「御抄尾張」の右に「四卷升丁」の書き入れあり。「藥師經疏」の左に「此十升三丁」の書き入れあり。

梵網經下=『梵網經』(大正藏24)
1004a23~25

義記上=『菩薩戒義疏』(大正藏40)
570c13~18

眼→義服 大禍→義火輪

雜寶藏經=『雜寶藏經』(大正藏4)

455b10~19

○→雜言 梵王→雜梵天

家→雜家中

乃至→雜但能供養父母便爲和上已在家中欲得阿闍梨在家中者但供養父母

供^二娘父母^一當^一知一切[、]天神已^一在^二家^一中^一*乃至若^一

供^二養父母^一諸^一賢聖及^二佛即在^二家^一中^一文

十一 供養父母功德事

末羅王經云人間世尊何等^ヲ爲父母[、]*恩力[、]佛

*言^々受^ニ父母[、]身體乳哺育養之恩[、]或^ハ從^レ地積^ム珍

寶[、]上^ニ至^ニ廿八天[、]悉以施^{セハ}人不^ハ如^ハ供^ニ養^{ヤハ}父母[、]文

觀經云孝^ニ養^{スル}父母[、]若人供^{スル}佛福等^{クハ}無^ク異^ニ文言泉

增^ニ云^{*}供^ニ養^{スル}父母[、]功德與^ニ一生補處[、]功德^一*等^ノ

玄^ニ云孝^ニ養^{スル}父母[、]報在^ニ梵天[、]文

正法念經云^{*}供^ニ養^{スル}父母[、]人^ハ得^ニ無量^ノ福[、]現在^ハ爲^ニ

人之^所讀歎^ヤ於^ニ未來世[、]能得^ニ菩提[、]文

十二 以^ニ佛法[、]開曉^ハ爲^ニ真[、]報恩[、]事

婆娑論一百三云如余經^ニ說^カ茲當^ニ知若有

*孝^ニ一肩擔^{ナシ}父^ヲ一肩^ハ擔^ハ母經^ニ於百年^ノ處々遊歷^{スルモ}

猶^ニ真實^ニ非^ハ報^{スル}父母恩[、]若有孝子[、]能勸^テ父母[、]於

佛法僧因果等^ノ法[、]未^ハ信者^ニ信^{セシム}者^ヲ增長^ハ無^ニ淨

戒者^ヲ勸^テ受^ハ持戒[、]有堅貪^者勸^テ行^{シメ}惠施[、]無勝^ノ惠

者^ヲ勸^テ修勝[、]惠[、]令^ハ普安住[、]以自^ラ調伏^{スル}乃名真實^ニ

報^テ父^母恩[、]文

即是阿闍梨在其家中若欲供養諸賢聖

及佛

十二 末羅王經^ニ〔佛說末羅王經〕（大正藏14）791a21～4思われるが、

本文は『法苑珠林』（大正藏53）

655a1～4が出典。

恩力佛→龜力佛　言^ト→龜^ト謂

觀經^ニ『大乘本生心地觀經』（大正

藏3）297c6～7

增^ニ『四分律刪繁補闕行事鈔』

（大正藏40）140c15～16

供養^ト孝順供養[、]等^ト等

玄^ニ『觀經疏傳通記』（大正藏57）

580c7～8

正法念經^ニ『正法念處』（大正藏17）

359b16～17

供養父母^ト供養此四種

十二 婆娑論^ニ『阿毘達磨大毘婆沙

論』（大正藏27）535c23～29

云流轉三界中恩愛不能斷棄恩入無爲

真實報恩者

十二湏闍太子割己肉供湏父母事

孟蘭盆記云大報恩經云湏闍太子、父母被賊所篡逃逝外國失路絕糧乃割己肉供湏父母令達前路^{二文}

十三忍辱太子己肉供父母救病患事

同記云大報恩經云忍辱太子、父母病重醫

者云湏不瞋人肉爲藥太子自念生來不瞋曰^テ名忍辱可^シ此藥又念國中設有^キ不瞋者

如何取彼救我親乎遂自割肉充藥厥疾乃瘳^{イユ}
抽音

十四釋尊擔棺事

增一阿含經云淨飯王崩白髮棺歛佛與難

陀在前阿難羅云在後難陀白佛父王養我

願聽擔棺阿難羅云亦爾佛念當來兇暴不

報父母故躬自擔棺大千六反震動釋梵諸

天皆來赴喪代佛擔之佛執香鑪前引就山文

十五他人爲親孝行事

孝一→孝子一
11才

真實非報→非真實報

惠→慧（三箇所）普→善

8行目は『新學行要鈔』（大正藏

74）782c27～28からの引用か。

十二孟蘭盆經『仏說孟蘭盆經』と

思われるが「湏闍太子（須闍提太子）」のことは不載。

大報恩經『大方便佛報恩經』（大正藏3）には「須闍提太子」に関して詳細に記述しており内容も似てい

るが同文無し。

」 11ウ

十三 同十二

十四増一阿含經『増一阿含經』

（大正藏2）だが符合文なし。

『佛說淨飯王般涅槃經』（大正藏14）

に類似内容あり。

十五弘四『止觀輔行傳弘決』（大

弘四丁下三*孝傳云^ク三州人者羿爲^{タリ}父子長^{ラハ}

正藏46) 265a14~b11

孝傳→弘孝子傳

爲^レ父ト次^ヲ爲長子ト次^ヲ爲幼弟ト父令ム^{ウク}填^{レモ}河^ヲ以テ造^レ宅^ヲ

久^ク填^{レモ}不^レ滿^ム爲^ニ父^カ貳^ル責^メ一^一子發^{サク}誓^ヲ若^シ必孝誠^{アラ}使^ヨ

填^{ルニ}河^ヲ有^レ徵^シ一^一發^ス是^ノ誓^ヲ已^{ルニ}河^ヲ爲^レ之^カ滿^{アリ}又蕭^{*}堯齊^{*セイカ}孝

傳^ニ云昔^シ三人各^ノ一洲^{ニテ}皆孤露^{*}梵獨^ト三人暗^ニ會^テ

於^テ一樹^ノ下^ニ相^ヒ問^{ハク}寧^{ナサ}爲^ニ断金之誓^ヲ二人曰^ク善乃

相^ヒ約^メ爲^{タリ}父子一梁朝破^{ルキ}三人離^{フカレ}五郡^ト者釋名^{ニ云^ク}

人^{ムラ}群^{カリツ}聚^{マル}曰^ク郡^ト天子制地千里^ヲ分^チ爲^ニ百郡^ト蕭^{*}堯齊^{*セイカ}孝

堯濟^{カ}孝傳^ニ云昔^シ五郡人^{アリ}謂中山郡常山郡恒

州魏郡ハ魏州鉅鹿郡ハ荊州趙郡趙州也五人

者少^シ去^リ鄉里^ヲ孤^{ニシテ}無^ニ父母^ト相^ヒ隨^テ至^リ衛國^ニ結^テ爲^{タリ}兄

弟^一長^{アサナ}字^{元重}次^ハ叔重次^ハ仲重次^ハ季重次^ハ稚重

朝夕^ニ相^ヒ事^{ツカヘテ}財累^{アリ}三千^ヲ於^ノ空城^ノ中^ニ見^一老母^ヲ兄

弟議^メ曰^ク拜^ソ此^ノ老母^ヲ以^テ之^ハ爲^レ母^ト曰^{ニテ}拜^ソ曰^ク願^ハ爲^ゼ母^ト

母乃^シ許^ル焉事^ソ之^ニ若^ス親^ニ經^テ二十四年^ヲ母忽^ニ染^ム患^ム

口不^レ能^ハ言^フ五子仰^テ天^ニ而歎^テ曰^ク如何孝誠無^ハ感^ム

母忽^ニ染^ム患^ム而不能言^フ若^シ我^レ有^{アリ}感使^ヨ母^ヲ得^レ語^{ハシメ}應^エ

レ時^ニ能^ク言^フ謂^タ五子^ニ上^ト曰^ク我本^ト是^レ太原^ノ陽猛^カ之女^{ムスメナリ}嫁^{セリハ}

同郡^ノ張文堅^ニ文堅身死我有^リ兒名^ハ烏^ヰ遺^セ七歲^ニ

12才

弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト惲^ト

「發^ベ是」の二点は、所有者の書き入れ。

「發^ベ是」の二点は、所有者の書き入れ。

孝傳^ト弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト惲^ト

孝傳^ト弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト惲^ト

堯^ト弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト惲^ト

堯^ト弘^ト惲^ト

堯^ト弘^ト廣^ト孝傳^ト弘^ト惲^ト

堯^ト弘^ト惲^ト

12
ウ

「三千」の「年」は、所有者の書き入れ。

值テ乱ニ遂ニ忘タリ所ノ之ニ我カ子ノ胸アメ前ニ有リ七星之文マヘ右足
下タニ有ニ黑子ノ語ハナ未レ竟而卒シテ五子送喪ヲ會ミ朝歌ノ令ル

ソトニ晨出テ忘ル其ノ記囊ヲ謂ハシメテ五子ノ所ノナリトモスヌタルトハヘ
詣テ河内ニ告ル柱ツクニ具ツクニ書ス始末ヲ河内ニ大守ハ乃是レ烏ノ遺ナリ

曰ヒテ大哭ハ曰ク吾レ生シテ不レ識ラ父母ヲ*而母爲ハ他ノ所ノ養ハ馳
使ラ放ユルス三一重ヲ後ニ奏シ五人ヲ爲セリ五縣ノ令ト文

十六重華事

千字文註上六丁云推位遜國有虞陶唐往云推遜皆

讓也堯ハ号ニ陶唐氏ト讓レ位ヲ與フ舜ニ々ヲ号ニ有虞氏ト讓

位与禹堯治天下五十二戴ニ洪九戴ニ自

知無德生子丹朱不肖ニ不堪レ治レ國聞ニ舜有孝

行召シ之妻以二女大女名娥皇ニ小女名女英

舜姓姚字重華少喪母父名瞽叟更取後母

生象後母常行惡心害舜瞽叟信後妻說言

共象弟等謀欲致舜乃令蓋屋舜知其意遂

被大蓆上屋父放火燒屋舜以蓆裹身跳下

叟見死復使陶井欲埋之時隣家知其意

語舜曰父母當令君陶井必有惡心何不避

之舜曰我只可順父母而死爲孝不可逆父

○→弘無し

十六

千字文註上六丁23・24(岩波文庫青220-1) 46~50頁

「云推」の「註上六丁」は、所有者による書き入れ。

母而走爲不孝親友聞之與舜錢五百使爲方便預作計向東家井中穿作孔相透明日果令陶井舜腰着錢五百入井中父母挽罐上看見銀錢一文歡喜未有墳意井深闇黑視不見底舜乃於東家井傍穿成孔相遍訖報父母曰錢盡也父母及弟見罐中無錢遂將石填之其父兩目即盲母便耳聾弟口啞後貧困又遭天火燒其屋舜已從東家井中出投諸歷山耕田歲收二百石粟敗名易姓入市鬻米見其母賣薪飢常倍與薪價一袋米錢私安於米袋中更与餅肉令擔肩而坂到家開袋米中得錢者數度皆如此瞽叟怪問之妻曰市中有二少年見貧困每爲怜恤常倍與我薪價叟曰此非吾舜子乎妻曰舜今在百尺井底以石填之自非聖人豈能更生來日將吾入市與其人相見妻遂扶叟至市見昨日少年來叟曰爲吾喚至報謝其恩妻便得少年至叟問曰君は是何人相怜過厚老弊不善兩目失明貧苦飢寒無以相報

少年ノ曰「我ハ是レ忠孝之人ト見テ翁貧困一ナラ特ニ相ヒ愍念ス
何ソ必ス言レ報叟聞ニ其ノ應聲ノ響カ曰非ニ吾カ舜子ニ平音
声相似シ舜ノ曰是ナリ也於是ニ父子相抱悲哭哀聲
盈ニ於道路ニ市人見レ之莫ジ不ニ悽惨舜將ニ衣襟ヲ拭ニ
父ノ曰即開テ明オ母亦能聴声象便能語ス舜再拜ノ
曰ク爲ソ子不孝ナム違於曠野ニ自レ今已後更ニ不レ如此
父亦大悔言クイマヨリ後チ不ミ敢舉意向ハニ吾カ聖子ニ市朝ノ
人ニ民見テ舜ノ孝行ヲ莫シ不ヲ流涕曰ニ此ノ孝順之声聞ニ四
海ニ帝聞ニ其ノ聰明一禪レ位与レ之ニ是ヲ爲ニ帝舜ト舜垂レ拱
無爲ナク萬邦歸化在レ位ニ八十二歳生子商均不

肖ナレ又禪レ位ヲ与ニ司空伯禹ト是ヲ爲ニ夏后氏三王ノ之
祖也

十七漢郭巨事

大明仁孝皇后勸善書第三云漢郭巨字文

舉河內溫ノ人妻產ム一子ヲ一三歳ナム母常ニ減レ食与レ之ニ
巨謂テ妻曰ク貧乏ニ不レ能ニ供給共ニ汝埋レ子ヲハ可シ再ヒ
有ニ母ハ不可レ得ニ再得不ニ敢テ違ニ巨遂ニ掘ルノ坑三尺餘
得ニ黃金一釜上ニ云ク天賜孝子郭巨官不得奪人モ不得取文蒙求ノ中ニモ有之

十七

大明仁孝皇后勸善書第三 || 『大明仁
孝皇后勸善書』卷三（四庫全書存目
叢書・子部二二〇）

得レ勸ナシ 不ニ敢テ違ニ巨レ勸ナシ

十八 漢董永事

又云漢董永千乘人少失母獨養父々亡無以葬乃從人貸錢一萬^{十貫}永謂錢主曰後若無錢還君當以身作奴主甚閔之永得錢葬父畢將往爲奴於路忽逢一婦人求爲永妻永曰今貧若是身復爲奴何敢屈夫人爲妻婦人曰願爲君婦不耻貧賤永遂將婦人至錢主曰本言一人今何有永曰言一得二理

何乖乎主問永妻曰何能妻曰能織耳主曰爲我織千疋即放爾夫妻於是索絲十日之内千疋綢足主驚遂放夫婦二人而去行至旧相逢處乃謂永曰我天之織女也感君至孝天使我償之君事了不得久停語訖雲霧四垂忽飛而去^{ル文}

十九 吳孟宗事

又云吳孟宗字恭武母年老病篤冬節將至思筭食時筭尚未生宗往竹林中泣而告天有頃地出土筭數莖將歸り作饗供母食畢而病愈人皆以爲至孝^{ムカシ文}

十八

又『大明仁孝皇后勸善書』卷三・

4話

「十萬」の右の「十貫」は、所有者による書き入れ。

「ユルス」の「ユルス」は、所有者による書き入れ。

「本言一人」の送り仮名・返り点は、所有者による書き入れ。

十九

又『大明仁孝皇后勸善書』卷三・

13話

升元湯霖事

又云元湯霖字伯雨早喪父事母至孝ナガシタマツル母嘗病カクシテ更數醫弗得効母不肯飲藥タマシタマツル日惟得水疾之可愈タマシタマツル爾時天氣甚燠タマシタマツル霖求冰不得累日號哭於池上タマシタマツル忽聞池中憂々拭淚視之乃冰漸也亟取以奉母其疾果愈ハタノユ文

升一漢丁蘭事

又云漢丁蘭者河內人也少喪孝妣不乃供養乃刻木爲人髣髴親形事之若生朝夕定省後隣人張升妻從蘭妻借看蘭妻跪授木人木人不悅不以借之張叔醉疾來酣罵木人木人杖敲其頭蘭還見木人色不懼乃問其妻具以告之即奮劍殺張奮吏捕蘭々辭文蒙求中未アリ木人去木人見蘭爲之垂涙郡縣嘉其至孝通於神明奏之詔圖其形像文蒙求中未アリ

升二老萊事

蒙求下云老萊班衣高士傳老萊子孝行養親年七十父母猶存身着斑欄之衣作嬰兒戲於親前取食上堂詐跌仆地爲小兒

升

『大明仁孝皇后勸善書』卷三には見えず。

升二

『蒙求中未アリ』の「二」は、所有者による書き入れ。

升二

蒙求下『蒙求』下(新釀漢文大系59)八三九頁「老萊斑衣」の要旨。

斑→蒙荊 小→蒙嬰

17
才

啼一欲^ス親^ラ喜^{ハシメント}焉文

升三 黃香事

又云黃香 扇一枕後漢黃香字文強九一歲失母
思慕骨立事父竭力致^ス養暑則^ハ扇其床枕寒
則^ハ以^レ身溫席和帝聞之特加異賜

升四 王祥事

又云王祥守^{タイ}標普王祥字休徵事^{ノカフ}後母朱氏^ニ
寔^{ニワノ}内^ニ有^リ一株丹柰^一母令^レ守^ヲ之^ヲ每^ニ風雨輒^チ抱^テ樹^ヲ
而泣^ク母思^ニ黃雀^ノ炙^{アツリモゼン}食^フ之^ヲ祥捕^レ之^ヲ忽^ニ有^リ數雀飛^テ
入^ル幕中也

升五 蔡順事

又云後漢蔡順字君平王莽末天下大荒順
拾^テ糧^{クハノミヲ}赤^ノ黑異^レ器盛^ラ之^ヲ赤眉賊見^テ而問^レ之順^カ曰^ク
黑^ノ者^ハ奉^{ツラ}母赤^ノ者^ハ自^ラ食^ム賊知^テ其^ノ孝^{ナルヲ}乃^チ遺^ル米三斗
牛蹄^一隻^ヲ及^ニ母^カ終^ル停^レ喪^ニ在^レ堂東家失^一火^{アリ}順不^能移^フ伏^レ棺^ニ而哭^ス火乃^チ飛^ニ於^レ西家^ニ也

升六 伯瑜泣杖事

又中末云韓詩外傳 伯瑜有^レ過^{アヤマチ}其^ノ母答^{ムチウツ}
之^ヲ泣^ク母^ノ曰^ク他日杖汝未^ス嘗^テ泣^ニ今泣^ハ何^ソ也對^一曰^ク

又『蒙求』下(新釀漢文大系59)
八四〇頁「黃香扇枕」の要旨。

升四

又『蒙求』下(新釀漢文大系59)
八四二頁「王祥守柰」の要旨。

升五

又『蒙求』下(新釀漢文大系59)
八四四頁「蔡順分糧」の要旨。

升六

又中末『蒙求』下(新釀漢文大系59)
59) 八〇一頁「伯瑜泣杖」の要旨。

他日得杖常痛今母老無力不能痛是以泣

也（瑜以居文）

升七 姜詩躍鯉

同下云後漢姜詩字士遊事母至孝母好生魚及江水其妻取水不及時詩乃弃妻寄鄰家常作臉債鄰母送之詩感之乃呼妻還舍中庭忽有湧泉味如江水日躍鯉魚一双

孝感如此也

升八 子路負米事

同上云家語仲由字子路見孔子一日昔由事二親之時常食藜藿爲親負米百里之外親沒後南遊於楚爲大夫從車百乘積粟萬鐘願欲爲親負米何可得也

升九 閔子忍寒

升四孝行錄云閔損字子騫早喪母父再娶生二子后母衣其二子以綿疾損衣以芦花絮父冬曰命損御車駄寒失輶父察知之欲逐後母曰母在一字寒母去三子單父乃止

「對曰」の「」は、所有者の書き入れ。

升七

同下『蒙求』下（新釈漢文大系59）一〇〇五頁「姜詩躍鯉」の要旨。

升八

同上『蒙求』上（新釈漢文大系58）二四二頁「子路負米」の要旨。

升九

『二十四孝伝并贊』（京都大学電子図書館、貴重資料画像）（四頁）との校異を示しておく。

后母→（二）後母

一字→（一）二字

后母不_レ慈_{スイツシマ} 獨_リ厚_ニ已_カ兒_ニ 弟_ヲ溫_カ兄_ニ凍_{コル}芦_絮

非綿_ニ父_将逐母 跪白于前 母今在此

一子獨_リ寒_シ 若_レ令_レ母_ヲ去_{ラシメバ} 三子俱_ニ單_{ハナラン}父感_シ
而止_ム 孝_乎 閔_子

卅曾姑抱_レ長

又云曾姑_ハ魯人也時_ニ值_テ齋_ノ冠_{コウニ}遂_レ之姑有_ニ

子_ニ棄_テ小者_ヲ抱_ニ大_ナ者_ニ而走_ル齋_ノ軍問_チ曰棄_テ小抱_{タク}
大何_シ也_ニ姑對_チ曰_ク大者_ハ是_レ夫_ノ前_ノ*妻子也夫亡_{スル}之
日_ニ屬_レ我保_ニ守_{セシム}不_ミ敢_レ忘_ニ其_ノ言_ニ也齋_ノ軍聞_レ之嘆_シ曰

義姑也此_ノ國必_ス有_ニ義士_ヲ收_{メテ}兵_ヲ而退_ク

魯姑將_{ヒギイテ}兒_ヲ走_テ逢_ニ齋_ノ冠_ニ問汝何_ニ心_ソ 抱_レ長

棄_{タク}幼_ヲ前_ノ*夫_ノ遺孤_チ夫亡_{スルキ}囑_ス我_ニ 雖_レ在_ニ危急_ニ

背_レ言_ニ不_可なり 女猶重_ス義 岳_レ曰_レ無_レ人 回_ム

戈卷_レ甲_ヲ兩國交_ニ親_ム

沙石集云魯國母子三人貧_シ世_ヲ渡_ル者_ノ有_リ二人_ノ

子外_ヘ行_{ケル}間_ニ隣_人此母_ニ耻_カマシキ事_ヲ与_フ

子トモ販_テ此事_ヲ聞_ム母_ノ耻_{キヨメン}雪_{ハシメシ}爲_ニ敵_ヲ敃_シ門開_テ官人_ニ
科_{トカラ}行_{ハシ}事_ヲ待_ツ兄_ノ云母弟_{トハ}無_シ過_カ我_レ誅_セラレント云弟_ノ

云母ト兄トニ無_シ過_カ我_レ誅_セラレン母云_ニ

『蒙求』下「閔損衣单」などに同話
あり↓補注。

卅『二十四孝伝并贊』(八頁)との
校異を示しておく。

姑對_→(一)對

妻子_→(一)妻之子

屬_→(一)嘱_ス

兒_→(一)兒

幼_→(一)幻

夫_→(一)婦

系85』一五七〇八頁。
→補注。

人ノ子ハ無^レ遍我レ子ヲ不^レ訓故ナレハ科^ハ

在^リ我身^ニ我^ヲ刑^シ二人ノ子ヲ助ケ玉ヘト云母ノ白^ス

臣尤ナレトモ母^ヲ助ケテ二人ノ子ノ中^ニ一人誅

スヘシ但^シ可^レ依^ル母^ノ語^ニ何^レ子ヲカ可^{キト}誅^ス問^{ヘル}母^白_ク

弟誅^シ兄^ヲ助ケ玉ヘシト王^ノ宣^{ハク}親^ノ子ヲ思^{ハセ}

多クハ幼^ヲ愛^ス何^シ弟^ヲ捨^テ耶母^白_ク弟我力

實^子也兄^ハ繼^子也彼^カ父終^シ時^キ我^子ノ

如^クハク^ムヘシト申セシ^ヲ此語難忘故^ニ

是^ヲ助^ケテ我^子ヲ弃^テ思^也ト白^ス王大^ニ感^シ

一門ノ中^ニ三賢アリ一事ノ中^ニ三義在トテ二

人共^ニ臣下^ニ召^シ仕^ハ母^モ同^ク榮^ヘケリ我^身ヲ

忌^レテ我^身ヲ全セリトテ賢名天下^ニ聞^ヘ

ケリサレハ人^ヲ損^{スル}ハ身^ヲ損^{スル}也

人^ヲ資^ハ身^ヲ資^也此理^ヲ不知^ラ不^レ義ナルハ

人^ノ皮^ヲ着^{タル}畜生^也冀^ハ先賢迹^ヲ學^テ後

昆^ノ規^トセヨ^云前^ノ曾姑^ニ相似^リ故書之

卅二 信濃國兒孝事

沙石集云信^{*}濃列中昔或人京ヨリ^{*}女姓ヲ

具^メ下^{*}タリ京^ニ物云人^{*}多ク有リケル力^{*}便リニ

— 20 ウ —

— 21 才 —

「忌^ホ」の左の「忘^ミ」は、所有者の書き入れ。

卅二 『沙石集』||『沙石集』卷三(六)

「小兒ノ忠言事」拾遺(日本古典文学大系85)四七八頁との校異を

文ヲ下シタリケルヲ多ク隠シ置ケルニカ

ハル事在ト告ケ知ラスル人在ケレハ男

*是レヲ尋出メ我レハ物モ書キ不レトド^{ヨノゾメ}讀マ子息兒ノ

ノ戸隠ト云山寺ニ在ケルヲ呼テ^テ繼母ノ前^ミ

讀マセケリ母色ヲ失テ肝モ心モ身ソハヌ^{*}躰

也此兒心在ル者ニテ只尋常ノ文ノ様^二和ラケテ

アマタノ文讀ケレハ^{*}男人ノ和諭也ト止

ヌ此繼母餘ノウレシサニ覗ヒ物ナト取

具文ヲヤリケル

*信ノナル木曽路ニカクル圓木橋

フミ見シ時ハアヤウカリシヲ

兒返哥信ノナルソノハラ^二コソ宿ラネト

皆ハキト思フ^{*}許^計リソ^{似リ}彼閑子^{蓋相}

卅二曾子覺痛事

升四孝行錄云曾參以孝行稱^{ラル}在野拾薪忽^ニ

心動^{ムキ}遽^ニ返^テ以^テ告^ニ其^ノ母^々日有^レ客至^ル囁^ク指使^レ汝^ヲ

知^レ之誠孝^{ナリ}如^レ此

曾子乾々事^テ親^ニ養^レ志^ヲ在^テ野^ニ負^レ薪^ヲ有^レ客來止^ス心^{ムキ}

動^テ遽^ニ坂^ル縁^ニ母^ノ囁^ク指^フ誠^ハ乃^チ天道^{ナリ}孝^ハ為^ニ行^ノ原^一彼^{モトカシユニイタメハ}痛^ム

示す。↓補注

濃^ト沙^州女姓ヲ^ト沙^人ヲオモヒテ

タリ^ト沙^テケル物云^ト沙^{物申}

多ク^ト沙^{アマタ}便リニ^ト沙^{タヨリ}

タリ^ト沙^{オコセ}多ク^ト沙^{アマタ}有

ケルヲ置ケルニカ^ト沙^{置タルヲ}

在ト^ト沙^{ナンアリト}

告ケ知ラスル人^ト沙^{告知スル者}

男^ト沙^夫

是レ^ト沙^是

戸隠ト云^ト沙^{戸隠ノ}在^ト沙^有

繼母^ト沙^母肝心モ^ト沙^{肝モ心モ}

躰^ト沙^體

男人^ト沙^人

也ト^ト沙^{ナリケリト思テ}

餘ノ^ト沙^{アマリニ}ウレシサニ^ト沙^ウ

ウレシク思テイタヒケシタル「信」

のルビは所有者の書き入れ。コソ^ト

◎シテ「許」の右の「計」は所有

者の書き入れ。相似タリ^ト沙^{ニタリ}

卅二『二十四孝伝并贊』(四貢)との

此ココニラホユ 覚メモリ 一イ*スルノ_{アマ} 分アマツク 峨アマツク 惑アマツク 三ミ告アマツク 一イ投アマツク*_{アマ} 柿アマツク 践アマツク 垣アマツク

卅三曾參忘_レ飢事

曾參魯人也父亡シテ七日_{アマ}水漿不アマツク歷アマツク口孝切アマツク於アマツク

心アマツク遂アマツク忘_ル飢渴アマツク也言泉集アリ

卅四曾參父打事

十訓抄云孔子之弟子曾參ト云ケルハ父瞋アマツクリ
テ打チケルニ不_レ逃アマツク打アマツクケル孔子聞給アマツク若打
敏サレナハ親ノ惡名ヲ立テン事ユアマツクシ
キ不孝也ト禁アマツク給ケル是モコトハリ也

親ノ躰ニヨルヘキニヤ

卅五曾子病語事

曾子有アマツク疾アマツク召アマツク門弟子アマツク曰アマツク啓アマツク予足アマツク啓アマツク予手アマツク注鄭玄
曰啓アマツク開アマツク也曾子以アマツク一アマツク為受アマツク身躰於父母アマツク不アマツク敢アマツク毀アマツク
傷アマツク之故使アマツク弟子アマツク開アマツク衾アマツク而視アマツク之上アマツク也

論語泰伯篇云

校異を示す。
事アマツク→_レ史アマツク 脇アマツク→_レ体アマツク

卅三『言泉集』||『安居院唱導集』
(角川書店 一一六頁)

『陽明本孝子伝』(『孝子伝注解』二〇〇頁)では、水漿→漿水。『船橋本孝子伝』(『孝子伝注解』二〇二頁)にも同話あり。

22
ウ

23
才

卅四欄外上部に「孔子家語四五」という所有者の書き入れあり。十訓抄||『十訓抄』中卷六ノ二十(新編日本古典文学大系 学館二四四〇四五頁)

卅六孝娥抱屍
卅四孝錄云孝女_{*}曹娥會替上虞人也父肝
爲巫祝漢安二年五月五日於_テ縣江_ニ汎_テ濤_ニ迎_ニ
*婆々神_ヲ江水_ノ大_ニ發_ス而遂_ニ溺_レ死_ス不_レ得_ニ其屍_ヲ娥年
卅四_ニ酒_ス沿_テ江_ニ号哭_ス晝夜不絕声_ヲ旬有一七一日遂_ニ

卅六『孝子伝注解』によれば、原話は、『会稽典錄』(後漢書)か→補注

投江而死抱父屍而出後史民改葬樹碑焉
孝娥姓曹父溺驚濤娥年升四晝夜哀号聲
不暫停旬有七日投江抱屍經宿以
出誠貫穹壤淚溢滄浪黃絹妙筆

萬一世流芳

蒙求上終云揚脩捷對注云後

漢揚脩字德祖有俊才爲魏王曹操主簿至

江南讀曹娥碑一人背上有八字其詞云黃絹

幼婦外孫薤曰操不解問脩曰卿知否之脩

曰知之操曰且勿言待朕之行三十里合
脩解脩曰黃絹色絲絕字幼婦少女妙字外
孫女子好字薤曰受辛辭字操曰一如朕意
俗云有智無智校隔三十里

卅七明達賣子

升四孝錄曰劉明達天性大孝也共妻奉母

時歲云大荒推車載母往河陽在路子侵母
食遂賣其子妻遂割一乳与其子相與成其

孝

昔劉明達共妻挽車年荒載母就粟
移居恐侵母膳持賣幼子獲錢五百

孝

参照。『陽明本孝子伝』『船橋本孝子
伝』(『孝子伝注解』一一六〇七頁
頁)に同話あり。

蒙求上終=『蒙求』上(新秋漢文
系四九九~五〇〇頁)

『二十四孝伝并贊』(六頁)との校
異を示しておく。

曹娥→曹娥者
婆々神→婆々或婆神

發→發

婆々神→婆々或婆神

發→發

卅七『二十四孝伝并贊』(七・八頁)

との校異を示す。

歳云→歳
往→遷
與→与
年→季
幼→幻

以_テ*備_ニ其_ヲ 妻不_レ忍_レ別 割_テ乳而_レ飯_ル 專

心孝養 終始無_レ違_フ

卅八元覺警父

又云元覺之父悟性行不肖_{ナリ} 覺_カ祖_ニ年_一老_カ且_ウ病_{メリ}
悟厭_{アグ}之_ヲ乃命_レ覺_ニ輿_ニ簣_ヲ而棄_ニ於山中_ニ覺不_レ能_レ止_フ
從_テ至_ニ山中_ニ取_レ簣_而飯_ル悟_カ曰凶器_ハ何_ノ用_レ對_テ日_一*留_テ
以昇_レ父_ヲ悟漸遂_ニ迎_テ祖_ヲ飯_ル

元悟悖戾_ニ棄_ニ父窮山_ニ有_レ子名_ク覺_ト 牧_レ簣_ヲ
而還_ル 曰_ク此_ノ凶器_汝何_ノ用_レ用_ヲ為_{サン} 親老_{イレバ} 昇_テ送_ン
世々_ノ乞_レ資_{ヨル} 良心不_レ亡_ス _{ホロビ}自反_ニ知_ル敗_ヲ 迎_テ父_ヲ
飯_ル家_ニ奉養無_レ怠_ル

卅九琰子入鹿

又云琰子_ハ迦夷國人也父母_ニ年老_テ並_ニ患双目_一
琰子衣鹿皮_一入_ニ群鹿之中_ニ將_ニ取_レ乳_ヲ以_テ供_ニ一親_ニ
遇_テ國王_ノ出_テ獵_ニ中_レ箭_ニ哀呼_ノ曰_ク王今_ニ一箭_ニ殺_ニ三道
人_ヲ王問_ニ其故_ニ曰我已_ニ死_キ而兩親俱_ニ死_{シナ}矣父母
聞_レ之慟哭_ス王遂_ニ引_テ至_ニ屍_ニ父母抱_テ屍_ヲ大_ニ哭_ス*振_ニ
動_ス天宮_ヲ天帝吹_レ*藥入口琰子得_レ*蘇_ルヲ
琰子不幸_ニ 二親双_ヒ瞽_{イタリ} 又老_テ且_ク病_{メリ} 思_レ飲

備_ト(三)供備

卅八『二十四孝伝并贊』(八頁)と
の校異を示しておく。

年_一季

留_ト雷

24ウ

25才

卅九『二十四孝』「刻子」『御伽草

子』(日本古典文学大系38 岩波書
店 二五七〇八頁に同話あり。

『二十四孝伝并贊』(九〇十頁)と
の校異を示しておく。

年_ト季

「殺_ニ」の二点は、所有者の書き入れ。
振動天宮_ト振天宮動

鹿一乳ヲ 乃蒙ニ其ノ皮一 入テ群ニ求メ取ル 忽遭ニ獵客ニ
 一矢ニ而殂ス 肅親來リ撫ズ 地辟^{ヘキシ} 天ニ呼 天
 帝賜テ*藥ヲ 入レ口便チ*稣ル

四十張札事

千字文云恭惟鞠養ト恭ハ敬也惟ハ思也鞠猶襁
 順也言ハ人ト當恭恭敬思念ス父母養育ノ之恩ヲ則爲ニ
 至孝ノ之人毛詩云父兮生我母兮鞠^{ヤナウ}我長^{ヒトナシ}我ヲ
 育^{ヘキミ}我欲ル報^{ヘイ}之德^ラ昊天罔^{ナシト}懲^{スメ}者^ハ是也昔有リ張札^{トキシ}
 遇^テ飢饉之ノ年ニ孤^{ヒトリ}養ニ老母ノ在^テ堂ニ年八十餘^ラ札拾^テ

レ菓^ヲ坂^ル於^テ路遇^リ賊^ニ欲^ス殺^レ札^ヲ食^{セト}之^ヲ札叩^レ頭^ヲ云ク家ノ中ニ^シ
 待^ニ養^シ老母^ヲ朝^{ヨリ}來^テ未^得食^ヲ乞^フ命少時^{坂^{タマニ}}家与^レ母^ノ
 作^レ羹^ヲ却^リ來^テ就^カ死^ニ札若^{不^ニ}坂^ル來^{任^{ホシイマハニ}}就^レ家斬^{爲^{セヨ}}百
 眼^ト賊遂^ニ放^チ去^ル札至^テ家^ニ懽^{タメニ}悅^ノ母^ノ作^レ食^ヲ供^シ訖^ヌ母^ノ
 怪^テ問^テ曰^ク今^ノ天下飢荒^{アリ}汝^何歎笑札^カ曰^ク兒^{在^テ}田^ニ
 拾^レ菓坂^ニ遇^フ賊^ニ欲^ル殺^レ兒^爲母未^レ食乞^フ食暫^ク坂^ル
 或憂愁^モ母必^ス不^シ食是以^テ強^ニ笑阿娘^ハ好^ク住兒^今
 去^テ就^カ死母^ノ曰^ク汝^既脱^シ賊^ヲ去^ル何^更自就^レ死札^カ曰^ク
 兒若^シ不^ハ去^ル賊來^テ斬^テ家族^ニ恐^ハ驚^サ阿娘^ヲ則^非爲^{タルニ}孝子^一
 弟隔^テ門聞^レ之蜜^ニ自走^リ去^テ賊^ノ叱^ニ謂^レ賊^ニ曰^ク向^{サキ}者欲^ミ

藥^ス→^シ廿十六
 蘇^ス→^シ蘇

四十千字文||『千字文』「惟鞠養
 恭・豈敢毀傷」(岩波文庫 七〇〇
 七三頁)『二十四孝』「張孝・張礼」
 (『御伽草子』日本古典文学大系38
 岩波書店 二六一~二頁)に同話
 あり。

坂タケ作ニ羹ク者ハ是レ兄アキラ今孝ラ養ニ老母ノ年老一辛苦羸瘦タマシイ
弟ハ肥肉コヘテ多シ願ハカハラン代ニ兄ムサシ命一兄復リテ至ニ賊アシハ曰ク札サカナ
本ヨリ許ス殺レト何ソ得シ殺ス弟ツチヤ賊見テ一人ヒト慈順シンブン皆ハシモ不ハシモ忍ハシモ殺ス
更ニ與シ礼ツバメ米コシヒカリ二石塩ニシキ一斤イチキン坂タケ侍ハシメ養フ老母ノ以テ全ス孝ハラハラ
敬スル之ヲ道ハ也シ

四十一 依子アキラ修善シラフ救親苦事シテハラハラ

優婆塞戒經云子修善法者父作トモ不善法因テ
子善令父不レ墮ニ三惡道文

四十二 可知父母年事

論語里仁篇云子曰三年無改於父之道可シ
謂ツ孝注署之子曰父母之年不レ可レ不知也タヒ
則以喜ヒ一則以懼ル注孔安國曰見ニ其ノ壽考ナルチ
喜ヒ見ニ其襄老一則チ懼ハ之也

四十三 文王并黄香事

千字文云*夙因温清詩曰夙トニ夜寐無レ忝二余ノ

所生一夙ハ早也因ハ起也礼記曰ク凡レ爲タル人ノ子ノ之礼
冬温夏清昏定而晨省此ニ言ハ事ニ親湏早起以テ

盡ス其ノ力カ如周文王爲タル世子常鶴鳴ノ時至ニ寢門ニ
而問レ安シヤト也昔シ黄香年十歲ニ父母ニ孝順アリ冬ハ則

四十二 → 補注

論語里仁篇=『論語』里仁第四86
道→優三惡道者
シ 法→優ナシ 善→優修善 三惡

」 26ウ

優婆塞戒經=『優婆塞戒經』卷五
(大正藏24) 1059c3~4 者→優ナシ

論語里仁篇=『論語』里仁第四86
87 (新釈漢文大系1) 98~99頁

孝→論孝矣

四十三 → 補注

千字文=『千字文』 66 (岩波文庫青
220-1 122 頁)

夙因温清→夙興温清

私=未詳

温ムカシノ床暖ムカシマツ被マツ 夏ハ則扇クニ其クニ枕席マツラ常マツル一
夜ハ五タヒ起タヒ視ル其クニ被マツノ厚薄枕マツラ之高低マツラ也ト
私モ云フ五タヒ起タヒ三水ミツミツノ礼マツトト云フ事モノ有リ之ミツ五タヒ起タヒ此タヒ事モノ乞マツタケ
又モ三水ミツミツ水ミツミツ或人モ云フ藥マツタケト酒マツタケト茶マツタケ三水ミツミツ水ミツミツ問マツタケ親マツタケノ心マツタケ
任マツタケ養マツタケ事モノ也ト云フ

四十四 羊祐事

朗詠注云*羊祐字雍伯洛陽安里人也此人孝養ノ心深キハシ又身才モリ有リ其名顯タヒシテ至タヒシテ太傅タヒシテ父母失タヒシテケレハ元終山タヒシテ云山葬爲父母命惜タヒシテ今タヒシテ生タヒシテ何タヒシテセントタヒシテ身タヒシテ投タヒシテ失タヒシテケリ其德タヒシテ碑タヒシテ文タヒシテ作タヒシテ硯山タヒシテ簾立タヒシテタリタヒシテ*往還タヒシテ人皆見タヒシテ碑タヒシテ文タヒシテ淚タヒシテ流タヒシテシケリ仍墮淚タヒシテ碑タヒシテ云フ

四十五 老母寶タヒシテ事

天竺タヒシテ三大國タヒシテ王アリ七珍萬寶充タヒシテ滿タヒシテ雖タヒシテ然長者富タヒシテ不タヒシテ飽タヒシテ欲タヒシテ無タヒシテ頂事タヒシテ尚タヒシテ內裏タヒシテ無タヒシテ寶タヒシテ有タヒシテ思タヒシテ國々タヒシテ使タヒシテ立タヒシテ寶タヒシテ比タヒシテセントタヒシテ云フ故タヒシテ自方々タヒシテ一種々タヒシテ寶タヒシテ持來タヒシテ中タヒシテ升五斗タヒシテ男七十斗タヒシテ老尼タヒシテ員タヒシテ來タヒシテ也大王タヒシテ曰タヒシテ此尼タヒシテ何タヒシテ不タヒシテ思議タヒシテ有タヒシテ令タヒシテ來耶タヒシテ男荅タヒシテ凡タヒシテ億々タヒシテ萬劫タヒシテ難タヒシテ受人タヒシテ身也然タヒシテ此タヒシテ尼我タヒシテ產タヒシテ山野タヒシテ不タヒシテ捨如タヒシテ此成タヒシテ人仕タヒシテ候サレハ日タヒシテ三度タヒシテ礼拜タヒシテ父タヒシテ已タヒシテ死タヒシテ候仍タヒシテ一

「被」は本文では「被」だが、文意から「被」の字を採用した。

四十四 ↓補注

「羊祐」は「羊祜」のことか。

朗詠註 || 和漢朗詠集私註 下卷

〔懷舊〕 383 ~ 384 頁

羊祐朗羊大傅朗とは羊祐大傅朗つひに大傅往還朗行きかふ碑文→朗碑云也→朗とぞ名づけたり

ける

四十五

「員」の「ヒ」は、所有者の書き入れ。

大事ノ寶ハ不ト過レ之ニ申シシハ重欲ノ國王聞テ之流シ泪不
レ知ニ目前ノ寶ヲ改悔メ親孝行ヲ成也シエフ
或人物語苗耳
故書之本說可

之尋

四十六 養老瀧事

十訓抄云昔元正天皇御時美濃國貧シキ男
有リ父持ケルヲ此ノ男山木草ヲ取テ其價ヲ得テ父ヲ養ヘリ

此父朝夕強ニ酒ヲ愛シケル依テ之男ナリヒサコト

云物ヲ腰ニ着テ酒賣ル家ニ望常ニ是ヲ乞テ父養ヲ有時ニ山ニ

入テ薪取トスルニ昔深キ石ニスヘリテウツフシ

ニニタリケルニ酒ノ香ノシケルハ思ハス

ニ恠シクテアタリヲ見ルニ石ノ中ヨリ水流レ出ル事

アリ其色酒ニ似リ杓クニナムルニ目出キ酒也宇礼敷

覺ヘテ其後日々ニ是ヲ杓飽迄養父時御門此事ヲ聞

召テ靈龜三年九月其辰御幸有御覽ケリ是

則至孝ノ故天神地祇哀其徳顕スト感セサ

セ給テ後ニ美濃守ナサレニケリ其酒ノ出辰

ヲハ養老瀧ト云トソ且依テ之同十一年ノ

年号ヲ養老トカヘラレタリ

四十七孝始終云事

或人物語ニ未詳

四十六

十訓抄『十訓抄』卷六ノ十八話
(新編日本古典文学全集51) 240~241

父→ \oplus 老いたる父 愛シケル→ \oplus 愛
しほしがる 望→ \oplus 行きて 迸→ \oplus

まろび シケルハ→ \oplus しければ ア

タリ→ \oplus そのあたり ト云トソ→ \oplus

とぞ申す ノ→ \oplus に カヘラレタリ

↓ \oplus 改められける

孝經云身體髮膚^ヲ*受^{ケテ}之父母^ニ弗^ル敢^テ毀^フ傷^一*孝之

始也立^レ身行^レ道^ヲ*敷^テ名^於後世^ニ以^テ顯^ハ父母^ヲ孝之
終^リ也(注)委見タリ千字文豈敢毀傷ノ下ニモ見タリ

四十八 孝經禁不孝文事

五刑章第十四云子曰五刑之属 三千(注)五

刑謂^ク墨^{ホク}則^{キヒ}劓^{キウ}宮^{ハキ}大辟^{ハキ}也其三千條^ハ墨辟^ノ之

属^ヒ千^ト剗^ミ其^ノ類^一 墓^ハ 之也劓辟之属^ヒ千截^{タクイ}其肌^ハ也

荆辟^ノ之属^ヒ五百断^ツ其足^ハ也宮一辟之属^ヒ三百割^ク

其勢^ニ也大辟^ノ之属^ヒ二百死一刑^{セツル}也凡五一刑之属^ヒ
三千也而^{ハニ*}辜莫^{ハニ*}大^{ナル}於^レ不^ニ孝^{二云言ハ}不孝之罪大^{ナル}
於三千之刑^{ヨリ}也辜ト者謂^ク居^レ上^ニ而驕^{ハニコリ}爲^レ下而乱

在^レ醜而爭之比也矣

孟蘭盆記云儒中五刑^{*}者墨^墨劓^{魚器^反}剕^鼻剕^{脚音}宮^{女幽閑}大辟^{音闢}此^ハ古之五刑^{ナリ}笞杖^{ツヅルシ}徒流死爲^ハ今五刑^ト者古今雖^レ殊而五逆罪不

在^レ其内(文) 言泉アリ

四十九 地神嫌不孝事

四十華嚴^{*}十三云地神常^ニ言^ク我肩^ニ大地^ノ一切
云有及^ヒ湧弥山^ヲ不^ニ以^テ爲^レ重^ト亦 ^{*}無^シ厭^フ心^於三種[、]

孝經 || 『孝經』開宗明義第一 (新釈)

漢文大系35 78 ~ 81頁

孝之始也 → (孝之始也) 身體言其大髮

膚言其細聖人論孝之始以愛身爲先立

身行道 敷 → (孝揚) 頤 → (孝顯) 千字

文豈敢毀傷 || 『千字文』40 (岩波文庫青20-1) 70頁

四十八

五刑章第十四 || 『孝經』五刑第十四

(新釈漢文大系35) 271頁

孟蘭盆記 || 『孟蘭盆經疏新記』卷上

(續藏經21) 463頁

言泉 || 『言泉集』諸本のうち叢山

文庫真如藏本 (古典文庫639) のみ

本文該當箇所を有する。

辜^ト罪^ト文^ト新^ト 反^ト 費音^ト新^ト 音

費^ト 截^ト 新^ト 戴^ト 之

四十九

四十華嚴十三 || 『大方廣佛華嚴經』

「四卷廿丁 錄外尾張」の「四卷廿丁」は所有者による書き入れ。

人「我恒「獸患不欲」*住持」何等^{アカ}爲^ル「一六者心「懷^テ叛^一謀^レ害^ニ人生^二「六者念^テ棄^ト*恩報^ヲ不^ル孝^ニ父母^三六者撥^ニ無因果^一暇^ニ謗^ニ三寶^一破^ニ法輪僧^一如^レ是三人我^レ懲^テ患^ニ重^ハ乃至一念^モ不^レ*願^ニ住持」文錄外尾張内附一
刑部左衛門

言泉在之
門女房御抄引

五十報恩^ニ有^ル分^ト全^ト事

孟蘭盆經疏云報^{スルニ}有^リ分^全者^{*}供^ニ養^{スルヲ}一生^ニ爲^ニ分度^ニ脫^{スルヲ}多生^ニ爲^ニ*全經云左^ノ肩^ニ擔^レ父右^ノ肩^ニ擔^レ母遍^ク行^ニ大地^ヲ亦不^レ能^ス恩^{スル}故^ニ知^ス此^ノ生^ニ*既^ハ報^{スル}設^ヒ同^{ヨシ}孟宗董黯董永之類^ニ亦爲^ル分^ト也今經^ニ云欲^レ度^ニ*父母^ニ者明^ニ其全^ニ也若^ニ惣^ノ不^ハ報^セ便^チ是^レ不孝^ノ罪人^{ナリ}况^ヤ加^ニ逆事^ヲ且^ク決^ク論^ニ一切^ノ人^ニ恩^ニ花嚴經云不知恩^ノ者^ハ多^ク遭^ラ橫死^ニ觀佛相海經云*是阿鼻^ノ因^{ナリ}諸^々因尚然^{ナリ}況^ヤ父母^ニ無^シ可^ニ校量^ニ文

五十一紀信忠臣事

千字文云忠^ニ則^チ盡^ス命^ヲ注^{タル}爲^ニ人^ニ臣^者^ハ事^レ君湊^{イル}忠^ヲ忠必^ス盡^ハ命^ヲ前漢賈山^ニ曰^ク盡^シ忠^ヲ竭^ス*慮不^レ願^ニ死亡^ニ之誅^ヲ言^ニ國家有^ル事^則必^ム用^ム命當^レ先^也昔^シ高祖爲^ニ漢王^ニ時与^ニ項羽^一爭^ニ天下^一漢王被^レ羽^ニ圍^ニ於榮陽^ニ

言泉^ニ『言泉集』「金沢文庫藏本」
(貴重古典籍叢刊6) 120頁

刑部左衛門女房御抄^ニ『刑部左衛門

尉女房御返事^ニ『孝養御書』(日蓮大

聖人御書全集) 139頁

十三云→^言十二云 済→^華須^ニ無

↓[◎]无^ニ（二箇所） 獣患→^華厭倦

願→^華欲^ニ 住持→^華勝持→^言任持

（二箇所） 恩報→^華恩親^ニ 三寶

→^華二尊 法輪僧→^華法輪僧障修

善者

五十

孟蘭盆經疏^ニ『佛說孟蘭盆經疏』

(大正藏39) 0508a21~29

供養→^孟侍養 全經→^孟故經 恩→

孟報恩 听報→^孟所報爲分父母者→

無シ計レ得ル脱ラ其ノ臣紀信カ曰ク臣聞ク主憂
臣辱トキハハチシメラル
臣死ス今事急ナリロウラクハヲサソ
城ノ之東門ニ詐称ニ漢王ト降レ楚々タノ項羽望ミ見テ大ニ悦フ
悉ク収ニ四面ノ軍兵漢王從ニ城ノ西門而遁去ル紀信
至ル楚ノ軍ニ羽認ニ一見テ其ノ詐レラ大ニ怒テ遂ニ以テ火焼ニ殺ス信ヲハ
是忠一臣爲君代命文蒙求中紀信詐
帝注アリ

五十ー申明忠孝事

千字文云資父事君曰嚴与敬注孝經曰資トツテ
於事レ父ニ以テ事レ君ニ而敬同シ又曰事レ父孝アリ故忠可シ
移ニ於君ニ聖人曰テ嚴ニ以テ教レ敬ヲ以テ順ヲ移ニ忠ニ之道蓋シ
不出此資者取也用也曰ト者語ノ辞也嚴ト者尊
也凡事ニ父与トレ君皆當ニ盡尊嚴愛敬之道能ク以テ
孝事レ君ニ則爲ニ忠臣ニ故欲ハスレ忠臣ト必ス於ニ孝子之
門ニ昔シ楚ノ惠王兄ノ子白公乱ス楚王伐ニ之不得王
曰寡人聞ク忠臣ハ必ス出ソト孝子之門若シ得テ孝子ヲ爲セ
軍將ト必ス能ク伐レニラ左右奏ノ曰ク臣聞ク有ニ申明者ト云モノ事テ
父ニ懲ニ盡ス孝ヲ楚王遂ニ使ノ人述ヘ之ラ申明曰ク我聞ク孝
子ハ不ス爲ニ忠臣今在テ家ニ事ル父ニ豈ニ更ニ背ヒテ父ニ事レ君遂ニ
不去王又召モ之明固ク辞ノ不往其ノ父語テ申明ニ曰ク

— 31 才

父母者意令得道惣総決
孟泛花ニ華是阿鼻因父母ニ有恩
不報是阿鼻因父母ニ父母之恩

五十ー

千字文 || 『千字文』 (岩波文庫青
庫青220-1) 61・62 (岩波文
庫青220-1) 114 117
220-1 118 121
頁

五十ー

千字文 || 『千字文』 61・62 (岩波文
庫青220-1) 114 117
庫青220-1 117 頁

「忠」の「ナラ」は所有者の書き入
れ。

汝^チ何^ソ不^{ラシ}与^メ楚王^ノ寧^ハ國^ヲ萬代^ニ留^メ名^ヲ汝^チ但^タ去^レ吾必^ス
不^レ死^セ明遂^ニ辭^レ父^ヲ去^ル楚王見^テ申明^カ來^{ラシ}大^ニ悅^ヒ拜^メ爲^ス

驃騎將軍

領^メ

兵^ヲ

伐^ニ

白公^ヲ

白公^カ

曰^フ

申明^ハ

是^レ

孝子^{ナリ}

必^ス

タラン

必^ス

ス

忠臣^ヲ

今^ハ

爲^ス

將^ト

伐^メ

我^ヲ

々^レ

必^ス

ス

大^ニ

敗^レ

左^レ

右^レ

曰^フ

サク

但^タ

縛^テ

取^テ

申明^カ

父^ヲ

來^{ラシ}

安^ニ

軍^中

乃^ハ

申明^引

兵^ヲ

至^{ラシ}

也^ハ

白^公

公語^テ申明^ニ曰^フ汝^カ父^已縛^テ在^リ我^カ軍^中矣汝^チ可^シ共^ニ
我和^ス若^不レ^ハ便^テ殺^{サン}汝^カ父^ニ申明^語ヲ^{ハシメ}白公^ニ曰^フ我^レ聞^ク

忠孝^ノ二事^ハ不^レ可^ニ並行^ハ我^今食^{ハシメ}君^之祿^ヲ豈^レ更^ニ背^チ
君事^レ父任^ニ汝^カ殺^シ却^レ明又即震^ヒ怒^ヒ發^レ陣^投得^テ白公

公^ヲ見^シ楚王^ニ々^タ大^ニ悅^ム明啓^レ王曰^フ明^カ父^已被^キ白公
斬^シ死^シ楚王聞^テ語^便命^{キリ}斬^ニ白公^ヲ收^ニ申明^カ父^ニ礼^ニ葬^ス

之^ヲ申明仰^テ天^ニ歎^テ曰^ク我雖^モ有^ニ定^ム國^之功^ヲ而^有ニ害^ス
父^之耻^ヲ遂^ニ自刎^シ而^死シ文

五十三陵母伏劔事

蒙求上陵母伏劔云前漢王^{*}陵聚^メ黨數千人^ヲ
及^{ミテ}高祖擊^ニ項羽^ヲ*及^チ以^テ兵^ヲ屬^ス漢羽取^ニ陵^カ母^ヲ置^ク軍

中^ニ以^テ欲^レ招^レ陵^ヲ々^カ母私^ニ送^レ使者^ヲ*位^ヲ曰^ク爲^{ハシメ}妾^カ語^レ陵^ニ
善^ク事^ニ漢^一王^ニ漢王之長者^ニ以^テ得^ニ天下^ニ無^レ以^テ老妾^ヲ
故^ニ持^チ一心^ニ妾^以死^シ送^ル使者^ニ乃^ハ伏^レ劍^而死^ス文

五十三

蒙求上^{ハシメ}『蒙求』上^{ハシメ}133 (新秋漢文大

系 58) 368 ~ 371 頁

陵^{ハシメ}陵沛人高祖起陵亦 及^チ蒙迺
以欲招陵陵母^{ハシメ}陵使至則東向坐陵
母以招陵 位^ヲ蒙泣 以得天下無^レ

五十四 弘演忠良事朗詠鶴詩小一題「鳳」爲「王」賊嵩

嫌少人而踏高位鶴有乘軒

惡利口之覆邦家雀能穿屋

注云此題「心」諸鳥中「鳳鳥」王トノ余ノ鳥ヲ臣トノ下セント也

文集「鳳凰」百鳥ノ主也ト云ヘリ或書「羽翼」之属

三百六名鳳爲之長ト云ヘリ此句心少一人ト年

若人ノ事非愚者云也帝王無才愚者高官ア
ル事ヲニクミ也然鳳王ハ鶴愚ナル身高位ア

ルヲニクムラント云也鶴高位アリト云

事本文アリ衛國王懿公ト云人アリ鶴無限

愛五位ナシテ行時車乗共アリキシ也

國人是事無限或時夷起衛國セメシ時國

人タスケサリキ鶴コソハ助ケ奉ルヘキトソ

云ケルサテ夷ウタレニキ夷殺食ケリ總

肝ノコセリ懿公臣弘演ト云ケル者其肝

取己カ腹サキテ此ヲサメテ死ケリ主辱時

臣死ト云事ヲ思ナルヘシ史記ミヘタリ懿

公鶴車ノルヲハ鳳王ハ定ニクムラント云也軒ト車
也下句君子ニクミアリ一利口邦家ク

〔蒙ナシ〕

注『和漢朗詠集註』上卷「雜」
〔鶴〕(日本歌謡集成)卷三)

249頁
〔鶴〕(日本歌謡集成)卷三)
248頁

— 33 才 —

— 33 —

ツカヘス事ヲニクム是ハエタリカホナル者、
 國ヲ損シ家破ルニクム也二六鄭聲雅樂ミルヲニ
 クム此アシキ聲以樂ミタルニクム也三六
 下トソシル事ヲニクム是ハ卑者能人ヲソシ
 ルヲニクム也論語ミニヘタリ此句心雀家ノ
 ムネナトヲクヒミタルハ利口人故無ク人、
 家破似鳳王定ニクムラント云也又雀屋
 ヲウカツト云事本文アリ毛詩云誰謂雀
 無能穿我屋誰謂鼠無牙能穿我墉矣
 五十五豫讓事

胡曾詩云豫讓酬恩歲已深高名不朽到如
 今年々橋上行人過誰有當時國土史記
 豫讓晉人也范中行馭智伯是滅豫讓仕智
 伯後趙襄子ト云人殺智伯豫讓爲智伯仇酬
 同之趙襄子ノ廁隱居ネライシ趙襄不知之
 廁俄心サワキノ不例覺間人シ令見豫讓見
 付トラウ趙襄其志感許之豫讓猶本意ヲ達
 トテ身漆アミテ瘤人形ナリ口ニ炭春フシ
 トナリ乞食中交橋ノ下ニ臥ノ趙襄出行

伺ヒケリ趙襄此橋上ヲ打過ルニ馬驚テ橋ヲワ
 タラス恠テ橋下ヲ見ルニ豫讓ヲ見出ス此上ハ無シ力是ヲ
 キルヘシ又趙讓問云汝始ハ范中行ニ仕ヒ智伯
 伐レ之其仇ヲ不レ酬剩^ハ智伯^ヲ馮吾智伯^ヲ亡ニ深恨ヲ
 ムスピ如レ此數ケ度吾ヲ伺フ事何意^ヤ豫讓曰
 范中行ハ我ヲ見ルニ只衆人也我モ衆人ノ如ニ思ヒ^ム智伯ハ
 我ヲ見フ國士トス然ハ我モ國士ノ心ヲ用テ其恩
 ヲ報セント也今ハ天命也不及力我今ニ自殺
 スヘシ但君力着タル表衣ヲ我ヒ与ヘヨト云趙襄
 衣ヲ与フ豫讓悅^ハ三度躍リ上リテ三度此
 衣截サテ自害シ其後趙襄七日ノ死^ス云ヘリ
 此橋ヲ豫讓橋ト名テ至今名^ハ也此詩ニ歲
 已ニ深シト^ハ歲年久シナリヌレトモ豫讓カ高名ハ未
 ハ朽今ニ傳ハレリト也國士トハ存シ義思レ忠君子行
 跡ヲ守者也衆人トハ只世俗ノ類也智伯此豫
 讓可有忠節者也トテ平生賞^{セシ}之^ヲ間感^レ之豫
 諾如此フルマイシ也橋今迄有^ハ日々此
 橋ヲ渡人多其中昔豫讓^カ所存持タル人難
 者也

五十六 可知恩事

五十五 法苑五十 = 『法苑珠林』卷

五十 (大正藏 53)

663b24~27

c26~29

665c21~24

正法念經 → ㊟如正法念經

」 36 才

法苑五十引正法念經云有四種恩甚爲難報何等爲四一者母二六者父三六者如來四六者說法師若有供養此四種人得無量福現在爲人之所讚歎於未來世能得菩提又增一阿含經云孝順供養父母功德果報經云左一生補處菩薩功德一等文又難報經云左

肩持父右肩持母經歷千年便利背上猶不能報父母之恩文知度論云知恩者生大悲

之根本開善業之初門人畊愛敬名譽遠聞死得生天終成佛道不知恩者甚於畜生也文

法苑四十九引末羅王經云人問世尊何等

爲父母恩力佛言謂受父母身体乳哺育養

之恩或從地積珍寶上至廿八天悉以施人

不如供養父母是爲父母力

五十七 慈童女罪福事

同雜寶藏經云佛言若人於父母所作少供

養獲福無量少作不順罪亦無量我於過去

久遠世時生波羅奈國爲長者子字慈童女

法苑四十九引『法苑珠林』卷四十九 (大正藏 53)

655a1~4

末羅王經 → ㊟如末羅王經

恩力 → ㊟力

五十五 同雜寶藏經 = 『法苑珠林』

卷四十九 (大正藏 53)

655a9~b19

其父早喪与母共居家貧賣薪日得兩錢奉養於母方計轉勝日得四錢以供於母遂復漸差日得八錢供養於母後人投趣獲利轉多日得十六錢奉給於母衆人見其聰明福德皆來勸之入海採寶聞已白母々見慈孝謂不能去戲語之言聽汝入海兒即結伴剋日已定辭去母即抱兒啼哭而言不待我死何由得去兒已許佗恐負言信便自掣出絕母頭髮傷數十根遂去入海多得寶還至於中路徒伴在前童女獨後失伴錯道到一山上見瑠璃城飢渴往趣有四玉女擎四如意珠作唱伎樂出城來迎四萬歲中受大快樂復生獸心捨之而去見玻瓈城有八玉女擎八如意珠作樂來迎八萬歲中撓大歡喜後獸捨去至白銀城有十六玉女擎十六如意珠如前來迎十六萬歲受大快樂後復捨去至黃金城有三十二玉女擎三十二如意珠如前來迎三十二萬歲受大快樂後獸捨去到一鐵城入見一人頭戴火輪捨著童女頭上而

奈→法秀

去時慈童女即問獄卒「我戴此輪何時可脱獄
卒答言世間有人作罪福業如汝入海經歷諸
城然後當來代汝受罪若無代者終不墮地復
問我昔作何罪福獄卒答言汝昔兩錢供養母
故得琉璃城四如意珠及四玉女^ヲ四萬歲中受
其快樂四錢供母得玻瓈城八如意珠及八玉
女^ヲ八萬歲中受諸快樂^ヲ八錢供母得白銀城十
六如意珠十六玉女^ヲ十六萬歲受於快樂以十
六錢供養母故得黃金城有卅二如意珠^{此二}
玉女卅二萬歲受大快樂^ヲ以絕母髮今得鐵
城火輪之報有人代汝乃可得脫復問獄卒

今此獄中頗有受罪如我此不答言無量不可稱計聞已念言我會不免願使一切應受苦者盡集我身作是念已鐵輪即墮獄卒見已^ヲ鐵叉打頭尋即命終生兜繩天佛告比丘昔慈童女今我身是以是因緣於父母少作善惡獲報無量是故應勤供養父母

五十八盤沙羅^ノ卵^ヲ終母歸云事

寶物集云乃往過去有國王名曰盤沙羅一

人婦人妊産五百葉蓮花夫人誕生様耻カニ

流三大河蓮花引レ流隣国ヘ流寄リス隣國々王恠ヲ是ヲ取上テ見ル五百葉蓮花中毎葉五百ノノ*卵ヲ即力ヘ

リテ五百男子ト成ス國王喜^モ養育^{スル}程五百子皆

力強ク心武五百武士ト成リ國王五百軍以^テ敵國

タルカ

故盤沙羅國セム盤沙羅大歎驚天アフク夫

人大王告^{ケテ}ノ玉ハク大王覽^ク軍退一下ヘシ我異國

軍觸^ルヘキ事有トテ夫人高樓登^{リテ}五百將軍向^テ云

汝等我子也如何親國セムル五百將軍等

云ク以^テ何知^レ親^{トモフ}夫人事有様語^ヲノ乳^ヲシホルニ

五百將軍口入^ル五百將軍是^ニ歸^ム甲脱弓^ヲハツ

ノ終盤沙羅隨事^ヲ云也

五十九當報主師親之三德局於今經事

知謗法論^{云下也}第三明當報主師親之

三德局於今經者經云今此三界○而不信受

云○涅槃卅五云一人出世多人利益一國土

中二轉輪王一世界中二佛出世無有是處

云○法華經云今日乃知真是佛子云○圓滿經

云唯我一佛^ニ及現^ニ之吾^ハ此三界國主吾^ハ此^レ

『類雜集』翻刻 [五]

寶物集『宝物集』卷第一(新日本

古典文学大系40『宝物集閑居友比良

山古人靈託』25頁)

「卵」の「卵」は所有者の書き入れ。

一切衆生、父母吾^ハ此一切衆生知識^云維摩

」 39才

經疏^云在宅內集國王大臣定父子天性汝

實^{我子我實汝父云}寶積經十五往來生死

*嶮難惡道愚癡無智常盲無目誰能引導誰力

能救護唯我一人應^{示應}救^云涅槃經二^云

我等從今無主無親無救無護無歸無趣貧

窮飢困^云同涅槃經^{*}疏第^二云無主是失法無親

是失法無救是失僧^{*}若無主忠無所護若無

親孝無所歸^云若無師學無所趣既不爲^云主護又

無主可護^{*}即無榮無祿是故言貧既無親可歸

又親去不歸^{*}即無生無陰是故言窮無師可

趣^云又師不示趣則無訓無成是故言困^云又

云無主無親亡家亡國^云又云二界獨尊唯

我一人一軀之佛作^云主師親^等^云○謹勘經文

倩案^{大師記}離三界中敢無異地釋迦佛外

無有異佛亦雖有於無量佛土無量僧法皆

悉釋迦一佛變一化過去之佛世々出雖名字

代毘盧遮那一佛云變化也故普賢經云釋

*迦牟尼佛名ヒルサナ〇名常寂光^云〇法華經

圓滿經=未詳

維摩經疏=『維摩經略疏』(大正藏

38) 582c27~28

寶積經十五=『大寶積經』(大正藏

11) 第七十九452c17~19

嶮→寶示
引→寶示

涅槃經=『大般涅槃經』(大正藏12)

611b11~13 跳→^通疏

同涅槃經疏第二=『大般涅槃經疏』

(大正藏38) 第11

55a02~8 法→^疏佛

若無主忠無所護→無護去釋所失若無

主忠無所護

即→^疏則 即→^疏則

又=『大般涅槃經』(大正藏12)

55b2~3 又=未詳

普賢經=『佛說觀普賢菩薩行法經』

(大正藏9) 392c15~17

云我^{*}實成佛已來甚大久遠壽命無量阿僧祇劫常住不滅^{*}或說己身或說他身或示己身或示他身或示己事或示他事等^云大經

四云我已^{*}久住是大涅槃種々^{*}示一現神一通^{*}反一化於此三千大千世界^{*}百億^{*}日月百億^{*}闍浮

提種々^{*}示一現文或說^{*}無量佛出世^{*}或^{*}約^{*}衆生

見^{*}或^{*}約^{*}二乘^{*}見^{*}或^{*}約^{*}菩薩見^{*}或^{*}約^{*}利根^{*}或^{*}約^{*}鈍根^{*}或^{*}說^{*}多佛出世^{*}或^{*}說^{*}一佛出世^{*}或^{*}說^{*}同時發心^{*}皆^{*}是前三教意而非只是^{*}故於權教

不^{*}湏^{*}苦^{*}窮^{*}之義也壽量品意無量佛國無量

刹土無量諸佛皆此釋一迦^{*}佛^{*}分身念^{*}釋迦

一佛^{*}三身相一即^{*}佛故信^{*}法報應^{*}三佛^{*}故信^{*}空假中三諦及^{*}以^{*}三菩薩^{*}亦報^{*}主師親^{*}三德^{*}也

視^{*}心地観經^{*}慈父恩高如^{*}山王^{*}悲母^{*}恩深如^{*}大海^{*}我若住^{*}於世^{*}一劫說^{*}悲母^{*}恩^{*}不能盡父

母恩尚^{*}重況^{*}師主^{*}恩^{*}哉故大經^{*}云十方各有^{*}一釋迦世界^{*}云

大論九^{*}云十方恒河沙等三千^{*}國土名^{*}為^{*}一佛^{*}國土^{*}是^{*}中^{*}更^{*}無^{*}余佛^{*}實^{*}一

釋迦牟尼佛^{*}云同論十一^{*}云百億^{*}湏弥^{*}爲^{*}三

迦牟尼佛名ヒルサナ名常寂光→釋迦牟尼名毘盧遮那遍一切處其佛住處名常寂光常波羅蜜所攝成處

法華經=『妙法蓮華經』(大正藏9)

42c19~21

實→^(2)無)

42c11~12 或說己身或說他身或示己身或示他身或示己事或示他身→⁽²⁾或說他身或示己身或示他身或示己事或示他事

大經=『大般涅槃經』(大正藏12)

388b20~22

心地観經=『大乘本生心地觀經』(大正藏3) 301b27~28

反→^{(2)變}

心地観經=『大乘本生心地觀經』

(大正藏2) 301b27~28

我若住於[↓]觀若我住世於

大論九=『大智度論』(大正藏25)

卷九 125b24~26

國土名為一佛國土→大千世界是名

千大千國土「如」是「十方恒河沙」三千國土是^ヲ

名「一佛土」是「中更無余佛」云「福田清淨經」云

報師恩者奉報「十方三世諸佛菩薩之恩」諸

佛摩頂菩薩守護云「十住ヒハサ論」云從^{*}師

求智惠不惜身命等云「玄八」云雪山爲八字

捨^二愛^一身^二是^一爲行本^一云止^二云當割^二肌肉^一供^中

養師上況復余事^ヲ耶同五云香城粉骨^ヲ雪嶺投^{トモ}

身亦何足報德^ヲ云孝經云不愛其親而愛他人者謂之

人者謂之悖德不敬其親而敬他人者謂之

悖礼^ヲ云梵網經云孝順父母師僧三寶者名

爲持戒^ト云四十二章經云凡人事^ニ天地鬼神^ニ

不如孝^ル其親^ニ親^ニ取神^云父母清淨經云

若人報父母恩生々世々中值佛菩薩不值

貪乏不值短命父母不值愚癡邪見父母^云

孝經云要君者亡上非聖人者亡法非孝者

亡親^云教內教外經疏云一世主一君一世師

長一世父一母之恩尚重一軀三一德釋迦之恩

未人知之故多流謗一法永沈地獄設釋迦佛

親有知人未師知之設雖知師無主知人故

爲一佛世界

大論十一『大智度論』卷九（大正藏25）卷 125b22～25

湏亦爲三千大國土如是十方恒河沙三千國土是名爲一佛土^ト須彌山百億

日月名爲三千大千世界如是十方恒河沙等三千大千世界是名爲一佛世界

福田清淨經未詳

十住ヒハサ論『十住毘婆沙論』

（大正藏26）115c13

師求惠不惜身命^ト他求智慧應不惜

身命

玄八『妙法蓮華經玄義』（大正藏33）777c15～16

止『摩訶止觀』（大正藏46）

4612b7～8 事^ト無し

同五『摩訶止觀』（大正藏46）

49a14～15

孝經『孝經』五刊章第十四（新釈）

伊
弔
諾
尊
陽

百
億
萬
歲
也

此
三
代
八
運
數
何
レ
二
百
億
萬
歲
也
已
上
八

沙
土
瓊
尊
陽

此
三
代
八
陰
陽
未
分
也

泥
土
瓊
尊
陽

此
三
代
八
陰
陽
未
分
也

國
常
立
尊

天
神
七
代

○
神
祇
門

國
挾
槌
尊

百
八
十
石
乳
哺
恩
報
ス
ル
心
歎

シ
チ
フ
サ
ノ
ム
ク
ヒ
ケ
フ
ソ
ワ
カ
ヌ
ル

モ
モ
サ
カ
ヤ
ヤ
ソ
サ
カ
ソ
ヘ
テ
タ
マ
ヒ
テ

六十行基菩薩孝養報恩給ケルハ力クソ讀給ケル寶物集アリ

堅牢地神諸神無護現世福報更不來後世

必墮三惡道故一体之佛作主師親ト言良可

思之亥

據背主之八逆罪有造背師背親廿過故被惡

漢文大系 35) 273
梵網經 = 梵網經 (大正藏 24)

274 頁

四十二章經 = 四十二章經 (大正藏 24)
1004a24 ~ 25 の要約。

四十二章經 = 四十二章經 (大正藏 24)

17) 22c9

取 → 章最

父母清淨經 = 未詳

教内教外經疏 = 未詳

六十 寶物集 = 『宝物集』卷第一

(新日本古典文学大系 40) 『宝物集閑居友比良山古人靈託』(三〇頁)

三

伊弉冉尊陰

治二萬三千四十歲

右此七代、即御於天伊弉諾伊弉冉兩

尊爲夫婦、生子天照等ニテ在ス也

○地神五代

天照太神

正哉吾勝々速日天忍穗耳尊アマツヒタチノミコト

天照太神御子即還天治

三十萬
歳
アマツヒコ
天津彦々火瓊々杵アマツヒコ
天忍穗耳尊也母日拷

幡千姫高皇彌靈尊女也受祖天照太神

勅初於日向襲之高千穗峯爲地居治天下

三十一萬八千五百四十二年葬日向可愛山陵

彦火々出見尊アマツヒコヘヒコ
瓊々杵尊第二子也母日本華開耶

姫大山祇神女也治天下六十三萬七千八

百九十二年葬日向高屋山陵

彦波瀬武鷦鷯草葺不合尊アマツヒコヘヒコ
タケウカヤフキハセヌ

也母日豐玉姫海童一女也治天下八十三

萬六千四十二年葬日向吾平山陵

二伊弉諾伊弉冉陰陽和合アマツヒコ生アマツヒコ一女二男アマツヒコ事

日神アマツヒコ伊勢月讀官ヒル
春日明神ヒル云クモ蛭子アマツヒコ西官狹アマツヒコ素アマツヒコ

欄外上部に「秩尊御出世時事八十三

蓋鳥○出雲國 日本記云伊弉諾伊弉冉尊共

サノヲノ
ハカラテ
議曰吾已ニ生ツオホヤンマノ

天アメノシタ下之主キミヲ者歟於是共生日神次月神次

生蛭子雖已ニ三歳一

橡樟船而順風放棄次生素蓋鳥尊云

蛭子事此神生後一向骨無多練綃如可成長

樣無故二神是海邊流シドヘリ龍神是奉取り天神

末ナレハ非シト只人養之三歳ト云時始四支正躰顯

人如シ此心カソイロハイカニ哀ト思フラム

匡衡哥力ソイロトハ父母也サレハニ

神イカハカリ哀レト思召ラム足シタハ

スノ三年ニナリヌト昔ラ思ヤリテヨメ

ル也カソトハ父ヲ云ヒイロトハ母ヲ云

ト日本紀辰々見ヘタリサテ彼蛭子天照

太神ノ御前ニ參リ下ヒシ時太神ノ仰ニハ

汝チ親ニ被捨下位ノ龍神ノ子トナレリ

サレハ可主國カサトル神アラス守ル民ヲ神ト成レ

ト被仰間捕津國西ノ宮ニ被崇戎三郎

ニ當リ下フ故三郎殿ト申也頬昭神中抄

ニアリ

万五千六百六十七年月也」と所有者の書き入れ有り。

三天照太神伊勢奉^レ崇時代事

人王第十一代垂仁天皇御宇廿六年丁巳冬

十月甲子伊勢國度會郡五十鈴川井上鎮坐
給也

四八幡大菩薩^ヲ事

本宮^ハ豊前國宇左宮^ニ在仁皇第十六代譽田^ノ
天皇^ノ御靈也第卅代欽明天皇^ノ御宇^ニ始^テ化現シ
此天皇^ノ御事^ハ胎内^ニ坐下ヒシヨリ神異ニマシ^シ
キ住吉明神御教^ニ依^テ御母^ノ神功皇后新羅百

濟高麗等ノ國ヲ平ケ給キ此國胎内^ノ天皇^ノ
治給ヘキ國也ト神託有キ垂迹^ノ初^メ我^ハ譽田^ノ八
幡丸也ト勅給^{シヨリ}八幡トハ申也譽田^ハ往昔御号
八幡^ハ和光^ノ御稱也此八幡^ノ御稱号^モ凡慮不測
ナリシニ文武天皇^ノ御子開成皇子出家^{メテ}攝津國
勝尾云^{ハシ}誓願^シ給時大菩薩化現示曰

得道已來不動性 示八正道垂權迹

能得解脫苦衆生 故号八幡大菩薩

五八幡大菩薩男山^ニ遷^{エラフ}時代^ハ五十六代清和
天皇^ノ御宇也

— 45 —
ウ

四

三

— 46 —
オ

五

六八幡三昧ト申事

中ノ御殿ハ大菩薩西ノ御殿神功皇后大足姫ト申東ノ御殿、神武天皇御母玉依姫ニテ坐也此神同殿事不測事也是海神女坐定由緒アル歟神服ヲ被献中ノ法体御装束兩所女体御衣也

七八幡法体御尊形事

昔聖武天皇東大寺ヲ建立時詫宣アテ彼寺ヲ巡礼給即此寺出家得度ヘキ由詫シ給テ如在ノ儀ヲ被レ行ケルヨリノ縁起也又式部卿敦實親王寛平
御子男体僧形ニ像造毎日御供被備或時僧形御躰箸令立給仍僧形安置申ヌ也

八八幡大菩薩本地釋迦ニテ在ス云事

八幡ノ御誕生ハ卯月八日寅滿八十二月十五日壬申御崩御也釋迦法王モ全同也天竺ト日本ト父母ハカハレトモ烏兔支于月日等不異以之可知之也又悲花經云我滅度後濁惡世

中現大明神廣度衆生文

九於神權實二類事

權者ノ神云ハ如ニ天照八幡等ノ佛神顕テ利益シ玉フ權現

悲花經ニ『溪風拾葉集』(大正藏76)

552a7~10に断続的に見られる。

五九話における「シ玉フ」以外の訓
点はすべて所有者の書き入れ。

權者、神ト云也實者、神ト云人或牛馬ナトノ死ノタヽリヲ成スヲ崇テ神ト成タルヲ云也能々

可分別事也

十三種神事一法性神謂身如來同跡ラ今宗廟内證是也此本地垂迹ニ立ル事也

二有覺神謂諸權現本誓佛菩薩本隠萬神顯レ玉ラ云也

三實迷神謂一切邪神真益ニ偽詫宣ニテ也

十二山王七社事

大宮權現釋迦地主權現藥師聖真子權現

弥陀大八王子千手觀音客人宮十一面十觀音

禪師地藏三宮權現普賢

十二漏出八幡事

大隅國一夜間漏出セル石アリ一石二破レタリ

一方云八幡二字アリ一方云昔在靈鷲山説妙

法華經今在正宮中示現大菩薩トアリ是ラ石

躰銘ト申ス是漏出八幡申ス也

十三山王猿使者トブル事

口傳云異朝天台山神猕猴形也天台止観

一神僧曰アル件神也云傳教御坂朝時一猕

猴ラ渡ラ衣ラ造チ着セム彼猕猴後胤繁昌アル也云又神ノ

田十話「謂ク」の「ク」はすべて
所有者の書き込み。

十二

47ウ

十二漏出八幡事——『溪嵐拾葉集』

(大正藏76) 79b02~04

十三

「神祇部五十神使」の「廿二社本

縁」日吉社事に同文あり。(『古事類

苑』「神祇部二」)

48オ

字以モ口傳スル也其心ハト云ニ神ト云字ハサルシメスト書ク

故也神僧授與心歟尚可尋之々々々

十四番神事

十日天照宮勢十一日八幡宮城十二日賀
茂山十三日松尾山十四日大原野山城十五

日春日和十六日平野山城十七日大比叡山

十八日小比叡山十九日聖貞子江廿日客

人江廿一日八王子江廿二日稻荷山廿三

日住吉津廿四日祇園山廿五日赤山山廿

六日健部江廿七日三上江廿八日兵主江近

廿九日苗鹿江廿九日吉備津中一日熱田尾

二日諏訪信濃三日廣田津四日氣比前五日

氣多登六日鹿嶋常七日北野山八日江文

山城九日貴船山

十五天照太神御託宣云

謀計ハ雖爲眼前利潤必當神明之罰

正直雖非一旦依怙遂蒙日月之憐

○同云依那切竹之上有和光之光雖有二親之

重服不出慈悲之家雖曳千日之注連不向

十四

三十番神については『門葉記』（大正藏図像第十二）630頁に詳しい。

十五

補注

欄外上部に「沙石集六」此託宣ヲ引テ聖德太子詞トスと所有者の書き込み有り。「託」の右の「託」並びに十五話の訓点はすべて所有者の書

不善之門。雖通達八萬聖教。不_レ知_ニ後世者無

智_ノ之者也。雖不_レ解_ニ一文。恐_ニ後世者有智_ノ者也。

海_ノ珍物飯上之飾_ヲ萬行修善慈悲之上行矣

十六八幡大菩薩御託宣云

鐵丸_ヲ雖_レ爲_レ食_ト不_レ受_ニ心穢_ヲ人之物_ヲ

銅焰_ヲ雖_レ爲_レ坐_ト不_レ至_ニ心穢_ヲ人之處_ニ

○同云_(桓武天皇延暦二年)吾_波以_ニ慈悲_ヲ天_ニ爲_レ軀_ト須_ニ寺務

社務司有_ニ非法_ヲ牟時者_ト可_レ歸_ニ寂光土_ニ志我軀

者_ニ有_ニ毛_ヲ也_ニ空_ニ毛_ヲ也_ニ以_ニ正道_ヲ天_ニ爲_レ軀_ト

有_ハ者和光垂迹之示現衆生利益之應軀

也空_ハ者本地幽玄之報軀虛空無相之妙

軀也寂光土_ハ者衆生心底究竟之佛土也

○同云_○我持_ニ日本國_ヲ示_ニ現大明神_ト○本軀是釋迦如來也

元慶元年○十一月十三日○權大宮司○藤

原○實元女○七歲_{ニシテ}託_{ニシテ}宣_{シエラ}也

○同云延喜二年四月二日二歲計_ト小兒託宣_{シエラ}

我自_ニ無量劫_ト已來_ト教化難_ニ度衆生_ヲ

爲_ニ未_タ度衆生_ニ在此中_ニ示_ニ現大菩薩_ト

き込み。

天照太神御託宣_ニ『中世古辞書四種

研究並びに総合索引』(風間書房)

所収『運歩色葉集』318頁『三社託

宣』「天照皇大神宮」の項に酷似文

あり。

十六 聖の訓点は「原實元女七歲託宣也」の文以外すべて所有者の

書き入れ。

○同云五十二代平城天皇御宇

紛喻之社者非_レ所_レ好珍財者非_レ所_レ重_{スル}

以_ニ正直之人頂_レ爲_レ栖ト以謳曲之人心不享

十七日本紀云傳教大師奉爲八幡大菩薩於

神宮寺_ニ自講法蒼經乃聞竟太神御託宣云

我不_レ聞_ニ法音久歷_ニ歲年幸值遇_レ和_ニ上_ニ得_レ聞_ニ正

教_ヲ兼爲_レ我修種々功德至誠隨喜_{スモ}何足_ニ謝德_ニ

矣苟_ク有_ニ我_ニ所持_ニ法衣即託宣_ニ主自開寶殿手_ニ

捧_テ紫袈裟一紫衣一奉_ニ上_ニ和_ニ上_ニ大悲力故幸

垂_ニ玉_{ヘト}納受_ニ是時祢宜祝等各歎異云元來不見

不聞如是奇事哉此太神所施法衣今在山

王院_ニ云_二八輔也

十八高麗大菩薩御託宣失_ニ正法者我全不_レ請_ニ

御調_ニ設_ヒ雖_レ在_ト正法權實雜亂共者非_レ雜_ニ白飯_ニ

沙_ヲ耶

十九熊野緣起云昔於中天度衆生今在日本

金剛山宇津宮權現末世末代利_ス群生_ニ

又云昔在鷲峯名牟尼_ト今於海中金剛山爲

度_ニ衆生_ニ現藏王_ニ文

— 50 才 —

廿七

叡山大師伝(『伝教大師全集』卷五
「附錄」)二八頁に同話有り。

十九

廿八

— 50 才 —

升葛木縁起云日本國主天照太神地神取

祔國治年久我是釋迦矣

又云此峯靈山無異地三世常住說妙法爲

度衆生施利益名大自在王文

升山王御詫宣云

一切梵經雖佛說我所念在法華大經一

子慈悲雖平等我愛子在顯密持者

同日吉御詫宣云

無慈悲與不正直者不可生淨土

同大宮權現云過去諸佛但以妙法爲正業

現在諸佛亦然也出離生死要門不同緣非

實真實要文妙法一言也

文是黒谷僧都後生

升賀茂明神御詫宣

是條院御宇惠心先德賀茂社七日參籠出離生死道何經有念時示也

釋迦之說教留一一乘諸佛之成道在妙法

菩薩之六度在蓮華二乘之作佛在此經

升三傳教大師賀茂社參詣講法華經時神喜

自甲冑布施也

升四大社明神

雖爲飲鐵湯不受不善人財雖爲座銅焰

前半二行の訓点は所有者の書き込み
51才

升

升一話の訓点は所有者の書き込みが混在している。

升

升一話の訓点は所有者の書き込みが

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升

升四

「一代五時継図」(『日蓮大聖人御書』六八〇頁)

不_レ到_二謗法_一人_二世_一

升五 蝶子明神雖_レ爲_二食_一五逆_二施_一不_レ受_二謗法供_一蝶_{トモ}
至_二重服處_一不_レ至_二小乘之室_一

升六 諏訪明神

二乘行人_レ一_二流_一水不_シ飲_二一_二道_一不_シ行_二況_ヤ可_二

歸_レ依_ス耶何況_ヤ可_レ馮_二師範_一耶神明_二無_シ別_レ体_一

以_テ法華經_二爲_レ軀_一

同云 方便敍一生越諸佛之萬行

名利善根勝達多之惡行

同御記文云此山_レ生靈驚山艮_{ウントラヨリ} 當_二慈尊說法

花_レ地_ヲ我以正法爲甲胄以_二正理_一爲_二弓箭劍_一我

以_二正法_一爲_二正軀_一行_二正理_一爲_二正祭故千_レ惡神三

界魔王_モ護_テ正法正_二理_一隨_レ我_二不_ハ行_二正_一法正_二理_一去_{ルベシ}

去_ハ立_二天下_一起_二災難_一文

同肉食許_シ文

業_ノ盡_{タメ}有情雖_レ放_ス不_シ生故_二宿_一人身_二同證_ヤ佛果_一文

升七住吉明神

吾無_二神軀_一以_ニ慈悲_ヲ爲_ニ神軀_一

吾無_二智惠_一以_ニ忠孝_ヲ爲_ニ智惠_一

」 52 才

升五

升六

」 52 ウ

業書_ノ『口傳鈔』(大正藏83)

742x06

升七

吾無^ニ奇特^一以^ニ無事^一爲^ニ奇特^一

吾無^ニ道德^一以^テ正直^一爲^ニ道德^一

同云山王者飽^ニ一乘法味^ニ勢力勝^レ我文

升八稻荷明神御詫宣云祈ハ今生ニシ藁^{ワラヲネガウ}也

者如^ニ稻樂^一豈得^レ稻時不得^レ藁哉文

升九北野天神御詫宣云吾於圓宗法味^ニ未飽

于心ニ仍^テ當^ニ遠忌^ニ修^{キハク}追^ニ善^ヲ湏^{タマ}改^テ蜜^ヲ壇^ヲ修^モ法^ヲ華八^一

誦^ヲ也^{文改^テ男多羅供^ハ始^ハ法^ハ華八^一誦^ヲ号^ニ吉祥院^云}

冊道祖神^ノ事

或抄云昔黃帝^ニ四十人^ノ子アリ其^ノ最末^ノ子^ヲ遊

子^ト云路アリク事^ヲ好^テ常^ニ遊^一行^{キシ}故^ニ名遊子^トナン

云ケルサテ我死シナン後道^ノ邊^ノ神^ト成^テ路^ヲ行人^ヲ

守^シ誓^テ神^トナレリ世^ニ是^ヲ道祖神^ト云也或抄云纍

祖云人遠^一行^フ好路^ニ迷^チ死^ス是^ヲ祭^{リテ}道祖神^ト云道^ニ迷

者助^クル神^也

冊二神^ノ形皆蛇身也^ト云事

神道秘典^ノ口傳云神^ハ本地佛^ニ在セトモ法界^ノ衆

生日夜朝暮起^ニ食嗔癡三毒^ヲ神^ノ慈悲イミシクメ

日^ニ三度夜^ニ三度鳥居^ノ上^ニ上^リ衆生^ノ愛欲煩惱^ヲ吸^{玉方}

— 53 —

升九

升八話の訓点は所有者の書き込みが混在している。

冊四

升八

即三契^ノ毒蛇ト顕^{シヨウ}也^云

卅二^一蛇^一神^一誓願^ニ信^{スル}人^ヲ隨^ミ蛇道^ニ事

文殊問經云一礼一切諸神祇生受蛇身五

百生現世不聞微妙法後生必隨三惡道

卅三^春日明神御詫宣

雖^レ曳^ミ千日注連^ノ不^レ至^ミ邪見之家^一雖^レ爲^ニ重服^一

深厚必赴慈悲之室^一

卅四^八幡御哥十訓抄アリ

アリキツ^ハキツ^ハミ^{*}ルトモイサキヨ
キ人ノコ^ハロヲ我レワスレメヤ

卅五^蟻通明神事

慈鎮味尚色葉集^一引奥義抄云ナ^ハワタニ

*ワカレル王ノヲ^ハヌキテアリトホシト

ハ^{*}シラスヤアルラン此歌^ハ和泉國^ニイマス

蟻通明神歌也昔御門四十老タル人ヲハ

遠國^ハツカハシ又ウシナハレケルニ親ヤ

持チタリケル人ノ孝ノ心深ノ家ノ内ニ

穴ヲ深ク堀リテ底ニ屋ヲ造リテ親隱ク

シヲキテ養ヒケリ並ヒノ國^ノ御門氏^ノ國^ヲ打

卅二^一 ↓補注

文殊問經^ノ未詳だが『中世神道論』

(日本思想大系19) 所収『諸神本懐集』本191頁に酷似文あり。

— 54 才

卅四^{『十訓抄』中 六ノ三八 (新編}

日本古典文學全集 51 二七七頁) ル

↓^レ

卅五^{色葉集^一引奥義抄^ハ『色葉和難集^一}

卷八^{』(日本歌學大系 別巻三一五五}

○^ハ五五一頁) 要旨の記述あり。

『神道大系 文學編1』「神道集
卷第七卅八(七)蟻通明神事」

(一九一頁、一九四頁)

『神道大系 論說編20』「神社考詳

節 蟻通^一 (一九九頁)

取心有リテ謀ヲ伺ハントテ白キ木ヲ同シサ
マニ削本末シリシ付テトテ送レリ人ヲ
集テトハシケレトモ更ニ知人ナシ此ヲ

土底ノ親ニ至テ語ル其木ヲ早川ニ浮ニ未ハ下成ナント
教フ其ノ様奏シ申シケレハ其ノマニシテシリ
シ遣ハスニ不透^ハ又同様ナル蛇^{クチナワ}ニツ送リ

テ是ニ妻男知ルヘキ由シ云ケレハ如前問ニ
ニ並テ其尾ノ方ニスハシラサシアテハ

妻蛇ハ尾^ヲ働く^{ハタラカシ}テントイヘハ其ノ様ニ申ニ又シカ也
又七ワタノ王ノワカレルヲ送^{リテ}穴^ヲ縉^ヲヌキ

テト云ヒ送レリ是ヲ又問ニ蟻ノコシニ

糸ヲ付テ王ノ片穴^ヲ蜜ヲ塗リテヌラヌ方

ヨリ蟻ヲ入レヨト云其ノマニシタルニ
蜜ノ香ヲカキテ通^{トフリ}又レハ糸ヲトヲサレ

ヌ甬テ返シ送ルニ彼ノ國ノ御門謀ノ賢サニ
畏レ不打^タ成ニケリ御門此事ヲ恠シミテ尋

給ニシカノト申ケレハ自是後老タル物ヲ
捨ル事ナクテ人皆ナ悦^フナシケリ此親^ト

云ハ彼明神也_{歌林良財集 清少納言、枕草子、引カケリ相^ト透^可尋之}

ワカレル王ノヲ^ハヌキテ^ト神マカ
レル玉ノホソヲ^ハ蟻通シキトタレ
カシラマシ

蟻通明神事_{』『日本歌學大系 別卷七』『歌林良材集51』(四七四頁)}に
記述あり。

シラスヤアルラン_{→歌}我をしらずや

冊六ツクマノマツリノ事

又云近江ナル。ツクマノ祭リハヤセナン。俊頬云近江

國ツクマノ明神ト申ス神才ハシマス其ノ

神ノ御誓^{ヲトコ}女ノ男^{ヲトコ}シタル數々^{アマタ}隨テ鍋ヲ造リテ

其ノ祭リノ日奉ル也男余シタル人ハ見苦シ

カリテ少シ奉リナトシツレハ物ノアシ

クテ病ナトシテアシケレハ數ノ如クシ

テ祈^トナヲリナントスル也^{筑磨}

冊七天照太神御詫宣

往昔勤修成佛道來願圓滿遍照尊

在於闍浮護王位爲度衆生天照神

冊八春日明神御歌云

我レヲ知レ釋迦牟尼佛世^ニ出サヤケケキ

月ノ世ヲ照トハ

冊九神明感歌降雨事

金葉集第十雜部云範國朝臣具伊豫國罷

下タリケルニ正月ヨリ三四月マテ如何

ニモ雨ノフラサリケレハ苗代モエセテ

サワキケレハ萬ニ祈リケレト叶ハテ難

冊六『歌論集 俊頬髓脳』(新編日本古典文學全集 87 一一四頁)要旨

あり。『拾遺和歌集』卷第十九雜恋

一二一九(新日本古典文學大系 7 三五三頁)

近江ナル^ト捨^スい^フしかも

『伊勢物語』百二十(日本古典文學大系 9 一七九頁)祭リハヤセナ

ン→^ト祭とくせなん

近江ナル^ト捨^スい^フしかも

『伊勢物語』百二十(日本古典文學大系 9 一七九頁)祭リハヤセナ

ン→^ト祭とくせなん

冊七

往昔^ニ諸回向清規(大正藏 81)

682a13~15

冊八春日明神御歌云『続古今和歌集』卷第七神祇歌六八七(新編國歌大觀 1 二二二一頁)

『金葉和歌集』卷第十雜部下六
二五(新日本文學大系 9 一八四)
一八五頁)要旨あり。

「堪ヘカリケレハ守能曰^ヨ哥讀^ヲ一宮ニマイラ
セテ祈レト申ケレハマイリヨメル

能曰アマノ川苗代水^ニセキクタセアマク

タリマス神ナラハ神神感アリテ大雨フ

リテ三日三夜ヲヤマサル由^シ家^シ集^シ見ヘタ

リ^{上巳}

或抄出云資朝郷爲伊豫守之時能因法師
讀合歌云七番竜宮祈雨

アマノ川苗代水^ニセキクタセ天マクタ

リマス神トシルヘク^{能因}

右天、川水セキクタス神ナレハ雨ノシタ

ニハアフクトヲシレ又十訓抄^ニ三嶋明^ト神^ニ

能曰感^ヌ雨見^タ異説記之又和泉式部日本ノ照^ル
コトハリサリナカラ不^ス雨イハシ^{アメカ}天^{アメカ}下トハ

此歌ヲ讀ミテ天雨ヲ感セシトナリ

四十一稻荷明神御歌云

詞華集云親處分^ヲ故無^フ人ニ押シ取ラレケ
ルヲ此事コトハリ給ヘト稻荷^ニ籠^ヲ祈^リ申ケル
法師ノ夢ニ社ノ中ヨリ云出^シ給ケル歌

アマノ川^シ神ナラハ神^ニ『金葉和
歌集』 625

『古今著聞集』卷第五 和歌第六 一

七一（日本古典文學大系84 一五八
頁）要旨あり。

『金葉和歌集』三奏本第十雜下六一
頁）要旨あり。

七（新編國歌大觀1 一七二頁）要
旨あり。

『十訓抄』下 十ノ十（新編日本古
典文學全集51 三九七頁）

— 57 —

— 57 —

四十二

長キ世ノ^ニ『詞花和歌集』卷第十
四〇九（新日本古典文學大系9 三
四八頁）ヲ→詞二

長キ世ノ苦ル敷キ事ヲ思ヘカシ何歎ク

ラン假リノ宿リヲ

*又西行ム作ノ撰集抄第一此歌祇園大明

神御告ム誠ニ以テ長キ世ノ事力ナシカ

ルヘシカリノ宿リヲ何ニナケクラント

撰集ニハアリ

四十 宗廟社稷ラヂ事

弘四丁十六宗ム尊也廟ム貞也謂尊ム貞之ム居ナリ

社謂ク后土ウチタ者吐也土之ム生如シ口ヨリ吐ク物ヲ即

地神也國語云平タヒラクル九土トトコ故ム祀以テ爲ム神ト田正也

又云戴タマキ黃天カツカム而履ム后土ウチタ地廣ムカシ不可ム盡敬ム故ム

封ム爲ム社ト稷謂ク五穀ムカシ惣ムカシ名也即五穀之神也故ム

天子ノ天ムカシ居ル左シ宗廟ラ右ス社稷ラ布列四時五行ラ故ム

以テ國ムカシ亡ル爲ム先ムカシ社稷ラ

有書云社ハ是レ土地ト主シ土地ト廣シ別ム不可ム祭ル故ム立テ

社以テ祭ル之ヲ稷ハ是レ五穀ト主シ五穀ト多シ別ム不可ム祭ル故ム

立テ稷ハ以テ祭ル之ヲ

四十二 白山明神事

元享釋書第十八云白一山明一神者伊昧諾尊

『撰集抄』(続群書類從 第三十二)

輯下雜部 三二七頁)

ラン假リノ宿リヲ

弘=『止觀輔行傳弘決』(大正藏46)

269b28~c6

貞→弘貌(二箇所)

惣→弘總

四十

」 58
才

弘=『止觀輔行傳弘決』(大正藏46)

貞→弘貌(二箇所)

惣→弘總

四十二

元享釋書第十八=『元享釋書』第十

也初泰澄法師棲^ム越前^{*}、刃越^ヲ知^{チノ}峯^ニ常^ニ望^テ白山^ニ

曰彼雪嶺必有^ニ靈神^一我^ハ當^テ下^レ登^レ彼^ニ乞^フ中^レ願^テ應^ラ上^レ靈龜

二年夢^ヲ天女瓔珞嚴身出^ニ紫雲^ヲ中^ヲ曰靈感時^{イタリ}

至^リ蛋^ク可^ニ戾^止馬^一養老元年四月一日澄往^テ白山^ノ

簾大野^ノ隈管河東伊野原^ニ乃專^レ心^ヲ持^一誦^{スル}時前^ニ云^ノ夢天女現^シ身^ヲ曰^ク此^ノ地大德之母產穢之云^{ナリ}

非^ニ結界之地^ニ此^ノ東林泉吾^カ云^ニ遊止^{スル}也師移^レ彼言已形隱^ル澄到^テ彼^ニ持念如^レ前^ノ天女又來^テ曰我^レ

雜^モ在^ニ天嶺^ニ恒^ニ遊^ニ此^ノ林^ニ此林爲^ク我^カ中^一居^ニ上^ニ護^リ一^一

人^ニ下撫^ツ萬民^ニ大德^{*}諾^ニ聽^ク日本秋津^{*}嶋^ハ本是神

國^ニ也國常立尊乃神^ノ代取初^ノ國主也次國狹

搥尊^ニ次豐斟渟尊次泥土瓊^ノ尊沙土瓊尊次^ヲ

大戸^ノ之道^ノ尊^ニ大苦邊尊次面足尊惶根^{カシニキ}尊次^ヲ

伊弉諾尊伊弉冉尊謂^フ之^ヲ天神七代^ト吾^ハ是^レ伊

弉諾尊也今号^ム妙理大菩薩^ト此^ノ神岳白嶺者

我^カ主^シ國^ヲ之^ヲ都城也我^ハ乃曰域男女之^ニ元神

也天照^{*}太神者我^カ子也天忍穗耳尊^ハ我孫也

其子天津彦^{*}人火瓊々杵尊受^テ祖天照太神勅^ヲ

降^テ治^ス此國^ヲ始^ハ爲^ク地^一居^ニ饗^レ國^ニ卅一萬八千五百四

八〔新訂増補国史大系〕三二) 一一

六九頁

弘^ム元州

嶋^ム元島

諾聽^ム元諦聽

十二年生彦火々出見尊饗國六十三萬七千八

59ウ

卅→元三十

百九十二年生彦波瀨武鷦鷯草葺不合尊

饗國八十三萬六千四十二年是名地一神五一

代ト人皇第一國主神武天皇者鷦鷯草尊第

四ノ子也在位七十六歲天皇年四十六始登ル

皇一位辛酉之歲也云吾カ真身ハ在彼天嶺大一徳

往見之言已天女乃隱澄乃登テ白山天嶺絶

頂居縁碧池測持誦專注忽ニ九頭龍出ツ池一面ニ

澄曰是レ方便ノ現軀非本地ノ真一身持念弥確頃

刻十一一面観自在菩薩妙相端嚴光彩赫熾タリ澄

聳首札足自言像末衆生願ハ垂ヨ救拯于時菩

薩搖ニ金冠ヲ瞬メ蓮眼ヲ而許ス之拜不ス畢ハ三ヲ妙*軀已

隱ル澄又渡リ左潤ニ上リ孤峯ニ值フ一偉丈夫ニ手ニ握リ金一

箭フ肩横ニ銀弓ヲ含テ笑曰我是妙理大菩薩之輔

也名ヲ曰小白山大行事ト大徳當ニ知聖観自在

之変身也言已テ乃隱ル澄又昇ニ右峯ニ見一奇一服

老翁ニ神宇閑雅ナリ語曰我ト是妙理大菩薩之弼

也名ヲ曰大己貢ト西利主也言已ニ又隱自此靈

感益顯著也澄嘗語人曰妙理菩薩曰我山

『類雜集』翻刻 [五]

中一草一木無不我眷屬之居一萬眷一屬

妙德降迹十方金剛童子遍吉垂迹五萬八千

采女堅女天之變作也

四十三 新羅明神事

又云新羅明神者天安二年圓珍師泛舶自

唐歸洋中忽有老翁現船舷曰我是新羅國之神也誓護持師教法至慈氏下生語已不

見珍入京將傳來教籍藏尚書省時海上翁

來曰此不堪置經書是日域中有勝地

我已先相攸師聞官建宇一度此典籍我鎮

加護又佛法是王法之治具也佛法若衰王

法亦衰語已形隱珍至睿山至山王院時山

王明神現形曰傳來經書耳藏此新羅明

神又出曰此地來世必有喧爭不可置也南

行數里是勝處珍乃與新羅山王二神及

二比丘到滋賀郡園城寺人僧教待說寺事

既而山王廻睿阜新羅明神語珍曰我ト居寺之北野時百千眷屬來圍繞唯珍獨見

*他人不知於是乘輿人儀衛甚多似美餚

— 60 —

方→元萬
堅→元堅牢

四十三

又『元亨釋書』第十八(『新訂增補國史大系』三一)二七〇頁

歸→元船

舶→元船

— 61 —

坂→元歸

人→元寺

他→元佗

饗新羅^{ニス}教一待來^リ賀^ス而後乘輿[、]人形隱^{ヒテ}不^レ見^ヘ珎
問^ニ明^一神^ニ執譽^ノ者爲^ル誰^カ新羅曰三尾^ノ明神也^ト祠^今
南自此新羅明神威靈益^ヘ顯^ル

四十四 天満大自在天神事

又北野天満大自在天神者菅丞相之靈也

昌泰四年因^ニ左僕射藤時平之讒^ニ左^ニ遷^{ラレテ}大宰府都督^ニ而薨未^レ死之先自裁^{タチ}跪訴^フ天^ニ帝^ニ故^ニ其^ノ靈奮激^ノ爲^ル威德天^ニ神^ト也天慶四年初月有^ニ沙門道賢^ニ借^テ冥見^ル金峯山^ノ金剛藏王菩薩^ヲ時五色^ノ光照^ム金峯山^ノ賢白^ノ曰^ク此光何^ノ祥^ノ藏王曰今大政威德天來^シ也湧臾之間西方空中千萬

人至儀衛偉如^タ也宛^カ似^タ王者之郊礼^也其^ノ衆奇形異貞^ヲ或^ハ如^シ金剛力士^ノ或^如雷電神夜叉羅刹^ニ甚^タ可^レ怖類^ヲ各持^ス器仗弓矢矛戟^ヲ大政天

與^ニ藏王^ニ語已^テ而欲^ニ歸去^一願^テ賢曰將^テ此^ノ人^ニ見^ヘ我居^ニ何^ノ如^シ藏王許^ス之使^テ賢^ヲ乘^ニ一^ノ白馬^ニ行^フ數百里

疾^ヲ如^レ風至^ニ一大池^ヲ々中^ニ有^ニ大島^ノ廣百餘里中^ニ

有^ニ方壇^ヲ々中^ニ有^ニ蓮花臺^ヲ々上^ニ有^ニ寶塔^ヲ々中^ニ安^ス

妙法蓮華經^ヲ塔東西壁懸兩部大曼陀羅其

塔嚴麗不可言也北有大城々門禁衛其嚴
又多大政天語賢曰我ク是上人ノ本國菅丞相
也忉利天帝字我呼日本大政威德天ト我譏

配時非不動心我主國土一切疾病災難事一
我欲下惱君臣ヲ傷申人民上又思以我カ生前悲泣之

涙化爲大雨浸本国爲水海經八十四一年成
立國土爲我住城然此國普賢龍猛流傳蜜

教之地也又應化諸聖以悲願力借名明神

游住諸處覆護衆生彼諸名神常慰諭我ヲ我
又愛重佛教故不成巨害但我十六萬八千
諸眷屬暴惡鬼神等隨處興災我尚難禁シ我
受神慰味法樂故昔日怨懟少息耳賢曰我カ
國ノ人民俱稱火雷神尊重禮敬猶如世尊何
怨乎大政天曰國俗以我爲仇讐誰敢尊
敬ゼン又火雷神者我第三使者火雷氣毒王ト云者

也非我名也我在世時既歷官位有レ人居スル之
我起害意是昔怨之甚也而今立ニ一誓遺ラシ本
邦上人傳之普屬流布若人作我形ヲ稱我カ名
慇懃尊重我必擁護セシ若人聞上人言フ信受崇

奉^{キハ}我亦不^{レシ}爲^{ナサ}如^ノ上之害^ヲ賢及^テ金峯^一陳^フ上^一事^一藏
 王曰我令^ノ汝^ヲ向^ニ彼^ノ城^一者使^{トリ}知^ニ世間災難之根
 本^ヲ也又有^ニ滿德天^一語^レ賢曰^ク彼^ノ大政天十六萬
 八千眷屬作^ニ毒害^ヲ者天下^ノ善神不^レ能^ハ遮止^ニ延
 長八年夏藤清貴平希世逢^ニ雷震^ニ而死者彼^ヲ
 火雷氣毒王之^爲也亦崇福法隆延曆擅林
 等諸大寺及大内之燒災皆是第三使者之
 云^レ作也如^レ是諸惡神滅^レ法害^ヘ生^ヲ皆冒泰帝獨^リ
 受^ニ其^ノ殃^ニ譬^ハ如^ニ衆流之宗^レ海^ニ耳乃至暴風疾雨
 瘦^一*病時行逆寇間^ク起^ル並是彼^ノ眷屬惡神之^元
 發也然^モ金峯八幡及我滿德天堅^ヲ執^ノ不^レ許故^ニ
 不^ニ自恣^セ天慶三年七月十六日^{*}詫^メ右京七^{*}条
 坊^ノ婢^{アヤコ}文子^一欲^ス棲^ト右近馬場^一其^ノ女甚賤^シ不^レ能^ハ當^ニ
 摂^一終^ニ祠^ニ家側^一天歷元年六月九日始^テ移^ス北野^ニ
 其製猶卑^シ九年三月近^ニ刃^ノ此良^ノ神官良種^カ*兒^{アガ}
 年七歲^{*}詫^メ曰我^レ昔^{*}住^ニ僕射^ニ先夢^ラ松生^テ我軀^ニ而
 便折^ル是^一以我^レ知^ル上^ニ三公^一又逢^フ貶竄^ニ以^レ故^ラ我^カ*^云
 北野^ニ於是朝日寺^ノ沙門最称與^ニ右京^ノ婢文子^一

病[→]元癟
 詫^メ→元詫
 条[→]元條

癟^メ→元癟
 詫^メ→元詫
 条^メ→元条

私[→]元松
 所居[→]元居所
 私[→]元松
 所居[→]元居所

勑^{ヤヒ}力造^{アル}靈祠^ヲ一^ヲ天德三年右丞相藤師輔○改^ル規^ヲ
大廈^ニ自^ル爾靈威日^々新^ナ世曰^フ十一面観自靈應^ト

四十五 鬼子母神事

鬼子母經云是母有千子五百子在天一上五
百子在人間千子皆爲鬼王一王者從數萬
鬼矣

經云佛語^{玉ハク}阿難到^テ是母^ノ所^ニ伺^ヒ其^ノ出^{ハシ}已^テ斂^ニ取^ラ其^ノ
子^ヲ着^{ヘシ}*聖者^ノ中^ニ即^{ハシ}往^チ伺斂^ニ得^テ十數^ノ子^ヲ逃^フ*聖者^ノ中^ニ
母來^ル不^レ見^ヘ便^チ捨^テ他子^ヲ不^ニ敢^チ復^レ行^サ索^ニ其^ノ子^ヲ遍
不知^テ行^{ハシ}道啼哭^ス如^レ是十日^ニ仰^レキ天^ニ大呼^テ不^ニ復^タ
飲食^セ佛遣^{ハシ}沙門^ヲ往^チ問^{ハシ}即報^ニ沙門^一言^{ハシ}亡^ニ多^ニ子^ヲ故^ニ
哭^ル耳^{ミ文}

鬼子母經云汝反盜^ニ人^ノ子^ヲ殺^シ*噉^フ死後^ニ當^{ハシ}入^ル*大
山地^ニ獄^{ニ文}

雜寶經七云鬼子母^ト者是*鬼神王^ト妻也槃闍

迦^ナ鬼^ナ妻^ナ有^リ子^{一萬}皆有^リ大力士之力^ト其^ノ最^少

子^ヲ字^ナ嬪^ナ伽羅^ト此^ニ鬼子母^ト*兇妓暴虐^ト殺^シ人^ノ兒^{一子}以^テ
自^ラ食噉^ス人民患^テ之^ヲ仰^テ告^{ハシ}世尊^ト世尊^ニ世尊^ル尔時即取^テ
其^ノ子[、]嬪^ナ伽羅^盛着鉢^ニ底^ニ時^ニ鬼子母周^ニ一遍[、]天一下^ニ

鬼子母經^ニ『佛說鬼子母經』(大正藏21) 290c17~18

人間[→]鬼世間

經^ニ『經律異相』寶唱等集(大正藏53) 242b8~13

聖者[→]律精舍(二箇所) 所[→]律處

仰天[→]律母便自擇自撲仰天

鬼子母經^ニ『佛說鬼子母經』(大正藏21) 291a17~18

噉^ト鬼^ト之^ヲ 大山地獄[→]鬼太山地獄
中^ニ 雜寶經七^ニ『雜寶藏經』(大正藏4)
492a13~29

鬼神王妻也般闍迦鬼妻^ト老鬼神王
般闍迦妻
少^ト雜小 兇妓^ト雜兇妖

七日之中推求不^{スルニ}得愁憂懊惱傳聖主佛世

尊^ハ有ト一切智即至^リ佛^所問^フ*鬼^所在^ラ時^ニ佛答^テ言^ク

汝^ニ有^リ萬^子唯失^ニ一子^{何故}苦一惱愁一憂而^{*}推^一覓^{ミヤクスル}

世間^ノ人民^ハ或^ハ有^ニ一子^{*}或有^ニ三五^而汝^六殺害^{モトメ}鬼^{モトム}

子母白^レ佛言我今^ノ若^シ得^ニ嬪伽羅^ヲ者^{*}不^ミ更^ニ斂^サ世

人^ノ之^子即使^{ルニ*}鬼子^ヲ見^セ嬪伽羅^ヲ在^リ於鉢^ノ下^ニ盡^ス其^ノ

神力^ヲ不^レ能^ハ得^レ取還^テ求^ム於佛^々言^ク汝今^ノ若能受^ニ

三^一歸五一戒^{盡マテ}壽不^レ敍^サ當^レ還^レ汝^ニ子^ヲ鬼子母即如^ク

佛勅^ノ受^ニ三歸及以^{*}五戒^一已訖^{ヲハテ}即還^{玉フ}其^ノ子^ヲ佛言

汝好^ニ持戒^レ汝^ハ是迦葉佛^時ノ^{カシメイ}王第九女^{ナリ}大作^ニ功能^ノ不持戒^ノ故^{*}受^ニ鬼界形^一文

經云鬼子母聞^キ佛說^ク一心^ノ自悔即得^{タリ}湧陀洹道^ヲ

長跪^白佛^ニ言^ク願^ハ佛哀^{ミ玉}我欲^レ止^ム*精舍^ノ傍^ニ我欲

呼^{ハト}千子^一我欲^レ報^ニ復^セ天^上天^下人恩^ヲ佛言^{ハク}善哉

*大^ニ善^シ佛^ノ言^ク便^止佛^ノ精舍^ノ邊^ニ其^國中^ノ人^一民^無子者^ノ來^テ求^ス子當^レ与^ニ子^{自在}ノ^所願^ラ我當^一勅^ス子^文

四十六十羅刹女神本地事

五大院云一名藍婆^{阿闍佛}二名毘藍婆^實

性佛三名曲齒^{阿弥陀}四名華齒^{不空成就}

傳聖主→雖傳聞他言云

鬼所在→雖兒所在

推覓→雖推覓耶

或有三五→雖或五三子

不更→雖終更不

鬼子→雖鬼子母

五戒已訖→雖五戒受持已訖

羯明王第九女→雖羯膩王第七小女

功能→雖功德以

受鬼界形→雖受是鬼形經云經云經
經^ニ『經律異相』寶唱等集(大正藏)

53) 242c5~10

精舍→雖佛精舍

我欲報復天上→雖使與佛結要我欲報

彼天上

大善→雖汝有是意大善

四十六

五大院→安然。出典未詳

妙法蓮華三昧秘密三广耶云^ニ『妙法

五名黒齒大日如來六名多髮普賢七名無厭

足欲勒八名持瓔珞觀音九名臯諦文殊十

名奪一切衆生精氣大日如來

妙法蓮華三昧秘密三廣耶云三昧陀羅尼ヒウ

耶經(新纂大日本統藏經2)

蓮華三昧秘密三摩
耶經(新纂大日本統藏經2)

女→遮無し

遮那答言→遮毘盧遮

那佛告言

始→遮初

上→遮淨

羅刹→遮四羅刹

*遮那答言テ十羅刹女ニ本有リ三覺一ニハ*等覺二ニハ*妙
覺三ニハ*本覺ナリ*始ハ*四羅刹ハ*上行等ノ四一大菩薩第五羅
刹ハ釋迦牟尼中ノ羅刹ハ八葉ハ四大菩薩第十羅
刹多寶如來

四十七十羅刹女事

一藍婆女 持三角菱ヒンヲ 三惑頓斷義也

二毘藍婆女 持三鉛杵キネヲ 三德秘藏意也

三曲齒羅刹女 持獨鉛唯有一乘法無二

亦無三意也

四華齒羅刹女 持白佛ニ 除障難意也

五黑齒羅刹女 持水瓶ニ 一德淨水也

六名多髮羅刹女又風指也 除魔意也

七無厭足羅刹女持華鬱 供養莊嚴義也

八持瓔珞羅刹女 四十一地瓔珞莊嚴意

也

九臯諦羅刹女 持燒香 若暫持者是則
精進意也

十奪一切衆生精氣羅刹女合掌衆人愛敬

義也

四十八 鬼子母神姿事

呵利帝母儀軌云左懷中抱^{ケリ}一、*婉子^ヲ於^ニ右手
中^ニ持吉祥菓^{一文}東陽云吉祥^ト者成佛[、]儀也療^ノ衆
生[、]色心之^ニ兩病^ヲ成^ニ三身不老不死果^{一文}

四十九 羅刹女於此經說神咒事

先德云問說^キ神咒^ヲ護^ル持經者何[、]女鬼^ト耶答於^ニ
諸道身^ニ類^ビ分^テ男女^ニ於^ニ中女身[、]罪垢深重^{ナガ}說^ニ六國
土淨穢^ヲ惡趣^ト女人^ト一對^{ソイニ}論^ス之^ヲ常^ニ耻^ニ惡趣女身[、]
垢穢醜陋^ノ形^ヲ事^{ナリ}而今^ノ經^ニ說^ク龍畜[、]童女^ハ現身^ニ頓^ニ
唱^ハ無垢[、]成道^ヲ持^シ經^ヲ女人^ハ轉^シ身往^中一生^ス安樂世^一界^ニ
聞^チ此[、]希奇[、]說^ラ身懷^ク踊躍[、]我^一等^モ亦如[、]是隨喜[、]心
切^{ナリ}故[、]說^ニ神咒^一護持^シ發^メ誓願[、]攘^{ハラフ}災也

覺大師云十羅刹女^ハ但在^ニ此經^ニ守^下護修^ニ行^ル此
經^ニ行人^上文

四十九

婉子^ト詞^ク孩子

289c09～10

四十八 呵利帝母儀軌→不詳
＊訶利帝母眞言經（大正藏21）

五十一大黒天神異名事

孔雀經云奪精鬼ト云也除群賊之難或除難天福聚天闘諍神摩迦羅天云惣有六十種

名云又大去垢書也錄外富木殿抄委

五十二大去垢有五種願事

一無智者成智者二貧窮人成福人三病之衆生成無病四短命之衆生成長命五惡心衆生成善心文

傳教大師云改尊高寶冠着卑下烏帽秘珂

雪玉一軀現塗炭黑身右手捧一實槌安胸左手執三昧袋懸肩下極位寶座履道祖草鞋

五十三松尾明神防寒風事

元亨釋書第十四六波羅密寺也在雲林院

一日入城有老翁倚城垣其兒甚寒齒一牙相戰也曰尊老凜寒何立此乎對曰我は松尾
明神也頃受般若法味未上白牛綻之車以故貪癡之風逼我膚師善法華願有意乎也脫衣度與曰我着此衣讀法華者四十年其妙香薰皆染是衣今獻之可ナラン乎神悅受之

五十四

孔雀經『溪風拾葉集』(大正藏6) 636a13~17に同様の説明有り。

録→左側に「七卷卅七丁升一九丁」と所有者の書き入れ有り。

五十五

元亨釋書第十四 (新訂増補国史大系31) 二一二頁四~七行

便披身相溫一如無復寒氣文前後略之持法華問答抄此事引用云

— 69 才

五十三犬神明神本跡事

三國傳記云昔江芻不知也河邊有狩人出ハ

山鹿殺無求苦提入飼家犬不厭煩惱畫遊ハ

千鳥罝遲々暮春日夜臥鳥籠山耿カウヘタル明秋ニ

夜彼ハ山深鬱々林茂森々或時夷々欲射ハ

林中獸日已暮遠人倫何物スコシ

弓鴈一膀カ取副テ大ナル朽木ノ本立ニ寄テ欲ル明夜ヲ比ヒ

良ラ汀目カ檢校ト云犬子ト小鳧ト秘藏ノ狗連タガ及深更ニ

向此犬主頗ハ吠ハ彼獵師ト出レ声叱呵尚ラ飛揚リ飛

揚吠ケ程ニ獵師腹立タ拔テ打刀ヲ犬頭ヲ打落タケレハ

其頭飛上テ自朽木ノ上大蛇下テ如ナ師子頭ヲ口ヲ

開テ爲ハ吞ト獵師ヲ喉笛ヲ嚙付テ則大一蛇喰ヒ殺タリ狩人見

之驚ハ怖悲ハ泣キ其ハ立テ祠ハ犬崇メ神ト今ハ犬神ノ明
神是ハ彼ハ犬上ノ郡ト云ケリ釋書似犬寺ノ事ニ

五十四神明與明神不同事

二

或日本紀注云一靈神ハ日月ニ先立ツ也故上ニ神ヲ

置キ下ニ日月ヲ置テ天ノ神ヲタ明ト云也明ハ日月ト書
故也下界ノ神ハ天ニ後ク故上ニ日月ヲ置キ下ニ神ヲ

持→右側に「内升一卷」と所有者の
書き入れ有り。

五十三

三國傳記 || 『三國傳記』卷第二一一第十八「不知也河狩人事」(大日本仏教全書 第九十二卷 二三七頁 鈴木學術財團)

— 69 ヴ

五十四

置^テ明神ト云也

五十五神明利生佛陀ニ譲リ玉ヲ事

— 70 才 —

垂仁天皇升六年十一月卯ノ日新嘗夜天照

太神倭姫^{ヤマトヒメ}詫^{ヲノ}玉^{ハク}各謹^{ムレ}無怠^{マサニ}アキラカニ

聽^ケ神^ノ代^ミ人^ノコ^ヽロ清淨^ラ正直ナリ故^ニ諸^ノ罪^ミ
トカト云コト無^シ然^{ルニ}地^一神^ノ末^{ヨリ}萬民^ノ心
キタナウノ^キ根^{ソノ}國底^ニ國^ニサマヨウ依^テ之^ニ西^シ天^{カタニ}
真^{マタウト}人アリテ天照皇天^ニカワリテ隨^テ人^ノ機^一説^ク
彼^ノ語來^{トス}故^ニ神明^ハ詫宣^ラ止メテ如來^ニユツリ佛^ハ
ハ神ニカワリテノリ^ヲ説ク此ノ神ノ詫

宣ニハ化導^ヲ西教^ニユツリ彼^ノ佛^ノ經

文ニハ利益^ヲ明神^ニアラワス矣人王十
代垂仁天皇御宇^ニ倭姫齊宮^ニ成ツテ伊勢^ニ
クタリ玉ヘリ壽命七百歲也

五十六天照太神御歌云

五十六

空ハカホ月日ハ眼コ風ハイキ海山ト
モニ我身也ケリ

— 70 才 —

五十五

19 ウ [升九]

「二十四孝行錄云」とあるが現段階では該当本不明のため、ノリハでは『二十四考伝并贊二卷』（京都大学電子図書館、貴重資料画像、平松文庫、見開き二十四頁）で校異を示しておく。書誌URLは
<http://m.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac/re00006464>

子騫の衣服に関して、『陽明本孝子伝』・『船橋本孝子伝』（『孝子伝注解』所収）などに「薄衣」とあるが、『蒙求』（新釈漢文大系59 六二四頁）『類雑集』では、「蘆（芦）花」となっている。また『沙石集』巻第三（六）「小兒ノ忠言事」（『日本古典文学大系85』一五六～一五七頁）『二十四孝』「閔子騫」（『御伽草子』日本古典文学体系一四五～一四六頁）に同話がある。

20 ウ [卅]

「沙石集云」以降、『沙石集』（『日本古典文学大系85』一五七～一五八頁。）との異同に傍線を付し、ノリハに記しておく。

魯州ニ母子三人貧シテ世ヲ渡ル者有ケリ一人ノ子他行ノヒマニ、隣ノ人、（此）母ニ恥カマシキ事ヲアタフ。子トモ歸テ此事ヲ聞テ、母ガ恥ヲスヽガム為ニ、隣人ヲ殺害シヌ。門ヲ開テサヽズ。官人〔ニ〕過ヲ可ヽ被ヽ行ヨシ申。兄ハ「母ト弟トワ過ナシ。我ヲ誅セラレム」ト申。弟ハ云、「母ト兄トハ科ナシ。我ヲ誅セラレム」ト申。母ヲ召テ問ルレバ、母「三ノ子ハ科ナシ。我僻事ニヨリテ恥ガマシ。此由ヲイフ。我子ヲ教ヘザル故ナレバ、我身ニ過アリ。我刑二人子ヲタスケラレム」ト申。「共ニ申所アレドモ、母ヲハ助ケテ二人ノ子ノ中一人ヲ誅スベシ。但シ母ガ詞ニヨルベシ」トテ、母ニトワル。母申サク「弟ヲ召取テ、

兄ヲバタスケラルベシ」ト申ス。王ノ給ク、「人ノ親ノ子ヲ思フ習ヒ多ハ幼ヲ愛ス。何ノ故ニ弟ヲ捨ゾ」ト、ノ給ヘバ、母申サク、「弟ハ我力實子ナリ。兄ハ繼子也。兄ガ父命終シ時、「我ガ子ノ如クハク、ムベシ」ト申。彼詞ワスレガタキ故ニ兄ヲ助ケムト思フ。我子ナレバ弟ヲ「バマキラス」ト申斯時、王大ニ感ジテ「一門ノ中ニ三賢アリ。一室ノ内ニ三義アリ」トテ、乍ニ一人臣下ニ召仕ハレ、母モ同ク富榮ヘテケリ。我身ヲワスレテ、我身マタシ。情フカク義アリテ、賢人ノ名天下聞ユ。是ヲ魯州ノ三賢ト云ヘリ。サレバ人ヲ損ルハ、身ヲ損スルナリ。人ヲ助ルハ身ヲタスクルニナル。此道理ヲ不知シテ、情ナク義ヲ忘ル人ハ、人ノ皮ヲキタル畜生ナルベシ。心アラム人、先賢ノ迹ヲ學ビテ、後昆ノ範ト可成。

なお、「沙石集云」以降との類話は、『孝子伝注解』（『陽明本』『船橋本』一七一～一七四頁）『内外因縁集』（古典文庫第三三七冊、四一頁）などに見える。

21 ウ **卅二**
『沙石集』（日本古典文学大系85）の注解に「米本を除く諸本次に一説話がある。但し、内・阿本は裏書にある」とある。本文の続きが拾遺にはあるので、記しておく。「梵網ノ文ニモアヒテ、アハレナリ。一切ノ男子ハ皆我父、一切ノ女人ハ皆我母ナリト、説ケルニタガハヌ心ナルベシ。哀ナリケル心ナルベシ。父ノ家ヲモツギテ侍リケルトナン。」

22 ウ **卅二**
本説話と同様、曹参に関連する孝行伝は、『孝子伝注解』（幼学の会）によると、彈琴譚、囁指譚、感泉譚、避境譚、投杼譚、絶漿譚、不娶譚から成り立つ。この内、本説話は囁指譚にあたる。なお、絶漿譚は『類雑集』卷五・三三話に相当、弾琴譚は『類雑集』卷五・三四話に相当する。

『船橋本孝子伝』は次のとおりである。「參父死也。七日之中漿不入口、日夜悲慟也。」

23 ウ **卅六**

『孝子伝注解』（幼学の会）一一七〇一二一頁参考。

27 オ **四十二**

「三年無改於父之道」は、『論語』学而第一11頁に同文あり。

27 オ **四十三**

「詩曰：清七敬及」は李暹注に依拠。

なお、『蒙求』下⁴⁴²（新釈漢文大系59）「黃香扇枕」では「香九歳失母・事父竭力致養」とあり、それを参照した『類雑集』卷五^{升三}「黃香事」でも、十歳ではなく「九一歳失母思慕骨立事父竭力致養」とある。

27 ウ **四十四**

『和漢朗詠集私注』は、「天文頃古写本」（新典社叢書10）「内閣文庫蔵室町期古写本」（新典社叢書10）「寛文十一年刊」（日本歌謡集成3）のうち、最も本文に近い「寛文十一年刊本」から校異を取つた。

なお、『晋書』卷三十四羊祜伝（和刻本正史 晋書）には「羊祜字叔子泰山南城人也」とある。

49 オ **十五**

『類雑集』と『三社託宣』の関係については、八木意知男著「『三社託宣』の研究と資料」（京都女子大学研究叢刊49、京都女子大学、平成23年）95～111頁が詳しい。

